



2020年度 決算説明会

コマツ出席者

代表取締役社長(兼)CEO 小川 啓之

常務執行役員CFO 堀越 健

常務執行役員経営管理部長 森下 正敏

2021年4月30日(金)

目次

I.新型コロナウイルスに関する影響について <P3-P4>

P4 : 新型コロナウイルスに関する影響について

II.中期経営計画の進捗状況 <P5-P7>

P6-P7 : 中期経営計画の進捗状況

III.2020年度 決算の概要 <P8-P18>

P9-P11 : 2020年度 第4四半期（1-3月）の概況

P12-P13 : 2020年度の概況

P14-P15 : <建設機械・車両> 2020年度の状況（概況・セグメント売上高・利益）

P16 : <リテールファイナンス> 2020年度の状況

P17 : <産業機械他> 2020年度の売上高とセグメント利益

P18 : 連結貸借対照表

IV.2021年度の業績見通し <P19-P35>

P20-P21 : 2021年度の見通し（概要・セグメント売上高・利益）

P22-P23 : <建設機械・車両> 2021年度の売上高とセグメント利益の見通し

P24 : <リテールファイナンス> 2021年度の見通し

P25 : <産業機械他> 2021年度の売上高とセグメント利益の見通し

P26-P31 : <建設機械・車両> 主要7建機需要推移と見通し（全体および地域別）

P32-P33 : <建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と売上高の見通し

P34 : <建設機械・車両> 部品の売上高の見通し

P35 : 設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

参考資料 <P36-P45>

P37 : Komtrax日次平均稼働時間推移

P38-P42 : 四半期毎の状況

P43-P45 : BBLレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕

I .新型コロナウイルスに関する影響について

新型コロナウイルスに関する影響について

1. 事業活動の状況

(1) 生産への影響

工場の稼働状況

20年10月以降は全ての工場が通常稼働

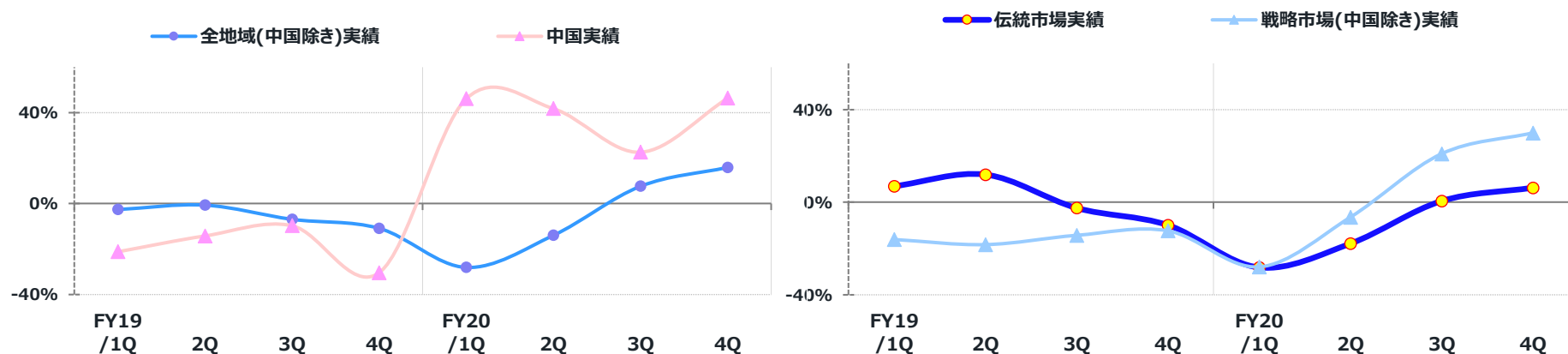
(2) 販売・サポート活動への影響

項目	最新の状況
市場の建設機械の稼働状況※	多くの地域で、第2四半期以降例年並みに戻った状況が継続
営業活動	一部の地域で在宅勤務。多くの地域で、通常勤務、あるいは、制限付き勤務に移行している状態
サービス活動	部品倉庫、サービス・ワークショップでは概ね通常勤務

※P37に主要地域のKomtrax日次平均稼働時間推移を掲載

2. 主要7建機需要

<対前年同期伸び率 (FY19~FY20)>



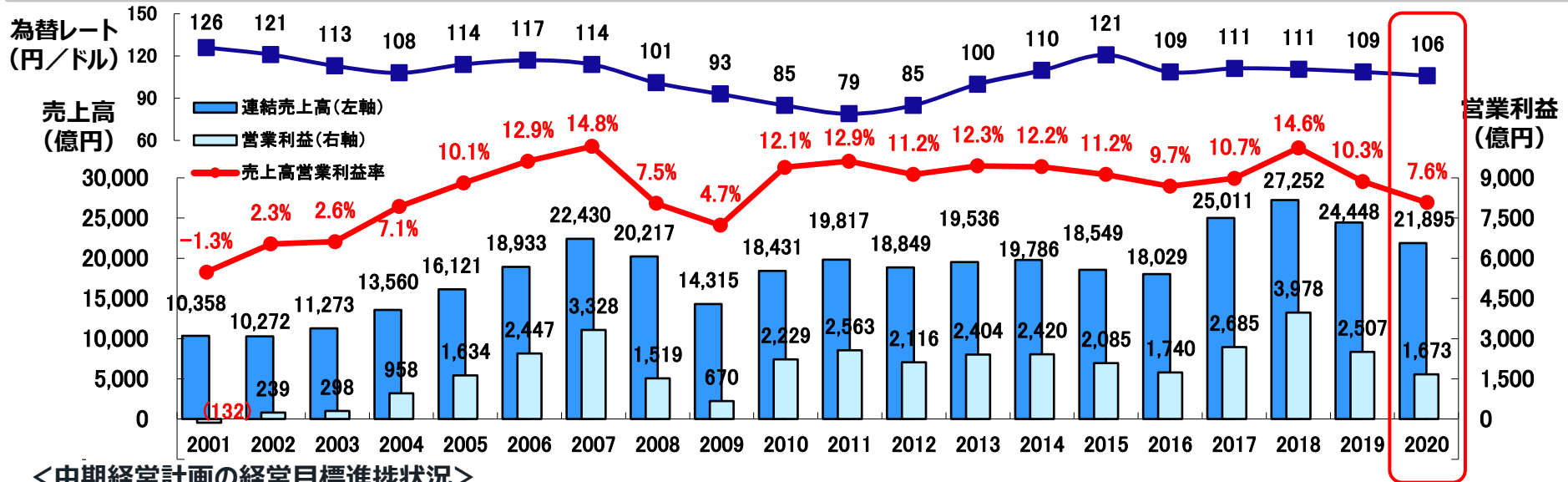
Ⅱ.中期経営計画の進捗状況

経営戦略の進捗状況と2021年度以降の課題

3つの経営戦略		活動の例
1.イノベーションによる価値創造	2020年度実績	<ul style="list-style-type: none"> DXスマートコンストラクションの市場導入（日本・北米・欧州・豪州） 「スマートコンストラクション・レトロフィットキット」の装着開始とミニショベルへの適用 無人ダンプトラック運行システム（AHS）の総稼働台数352台の達成（20年度末目標330台） 中小型クラス油圧ショベル電動化共同実証実験開始—米国プロテラ社との協業を発表— NTTドコモとの商用5Gによる鉱山向け大型ICTブルドーザー遠隔操作の実証実験 ダム施工における本格的自動化施工の開始
	2021年度以降の課題	<ul style="list-style-type: none"> DXスマートコンストラクションの拡大、グローバル展開 鉱山用新オープンテクノロジープラットフォーム開発 自動化・自律化・電動化・遠隔操作化の技術開発
2.事業改革による成長戦略	2020年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 規制対応、商品力UP、アジアダントツNo1等を目的とした開発機種の商品化 メンテナンス契約付延長保証の拡大 人検知システム、衝突検知システム搭載車の拡充 林業機械事業の拡大（シルビカルチャーとスマート林業への取組） 次世代KOMTRAXの導入 坑内掘りハードロックのダントツ商品開発 電動式フォークリフト「FE25-2」、「FE30-2」を新発売 コマツNTC EV車載用電池製造装置の開発と市場導入
	2021年度以降の課題	<ul style="list-style-type: none"> 坑内掘りハードロック事業の市場ポジション向上 次世代KOMTRAX活用による新しいビジネスモデルの構築 ライフサイクルサポート実現に向けたバリューチェーン改革の継続推進 産業機械事業改革（建設機械事業とのシナジー拡大、コア技術による成長）
3.成長のための構造改革	2020年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 地下掘りソフトロック事業の構造改革 DXグランプリ2020に選定 氷見第二工場内に新シールリング工場を建設 南アフリカにて新リマン工場完成
	2021年度以降の課題	<ul style="list-style-type: none"> ICT・IoTによる業務改革推進 構造改革と継続的なコスト改善活動の推進 次世代工場 地球・作業環境負荷ゼロ工場の推進 グローバルな人材強化、ダイバーシティの推進

中期経営計画の進捗状況

・新型コロナウイルス感染拡大による需要の減少等で、減収減益となった。



<中期経営計画の経営目標進捗状況>

	経営目標	年度	2019年度	2020年度
		指標	実績	実績
成長性	・ 業界水準を超える成長率	売上高成長率	▲10.3%	▲10.4%
収益性	・ 業界トップレベルの営業利益率	営業利益率	10.3%	7.6%
効率性	・ ROE 10%以上	ROE	8.6%	5.8%
健全性	・ 業界トップレベルの財務体質	剰D/Eレシオ	0.43	0.35
株主還元	・ 成長への投資を主体としながら、株主還元（自社株買いを含む）とのバランスをとる。 ・ 連結配当性向を40%以上とする。	連結配当性向	57.7%	48.9%
ESG	・ 環境負荷低減 CO2排出削減：2030年50%減（2010年比） 再生可能エネルギー使用率：2030年50%減（2010年比）	製品使用によるCO2削減	▲14%	※ ▲14%
		生産によるCO2削減	▲32%	※ ▲33%
		再生可能エネルギー使用比率	11%	※ 13%
外部評価	DJSI選定（ワールド、アジアパシフィック）	外部評価	DJSI選定	DJSI選定
	CDP Aリスト選定（気候変動、水リスク）		CDP気候変動 評価 A CDP水リスク 評価 A-	CDP気候変動 評価 A CDP水リスク 評価 A
リテールファイナンス事業	・ ROA 1.5% - 2.0%	ROA	1.5%	1.2%
	・ ネットD/Eレシオ 5倍以下	剰D/Eレシオ	3.80	3.69

Ⅲ.2020年度 決算の概要

2020年度 第4四半期（1-3月）の概況

- ・ 連結売上高は前年同期比+9.5%増収の6,762億円。
- ・ 営業利益は前年同期比+39.4%増益の597億円、売上高営業利益率は+1.9ポイント上昇の8.8%。
- ・ 純利益は前年同期比+116.7%増益の402億円。

金額単位：億円	2020年1-3月	2021年1-3月	前年同期比	
	¥108.1/USD ¥120.0/EUR ¥15.5/RMB	¥104.8/USD ¥127.3/EUR ¥16.2/RMB	増減	増減率
連結売上高	6,174	6,762	+587	+9.5%
セグメント利益	507	641	+133	+26.3%
その他の営業収益（▲費用）	▲ 78	▲ 43	+35	-
営業利益	428	597	+169	+39.4%
売上高営業利益率	6.9%	8.8%	+1.9ポイント	-
その他の収益（▲費用）	▲ 96	▲ 3	+93	-
税引前純利益	331	594	+262	+79.0%
当社株主に帰属する当期純利益	185	402	+216	+116.7%

2020年度 第4四半期（1-3月）の各セグメント売上高と利益

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年同期比+7.4%増収の5,941億円。セグメント利益は前年同期比+21.1%増益の538億円。セグメント利益率は+1.1ポイント上昇の9.1%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年同期比▲6.2%減収の168億円。セグメント利益は前年同期比+35.2%増益の23億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年同期比+36.9%増収の692億円。セグメント利益は前年同期比+80.8%増益の73億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

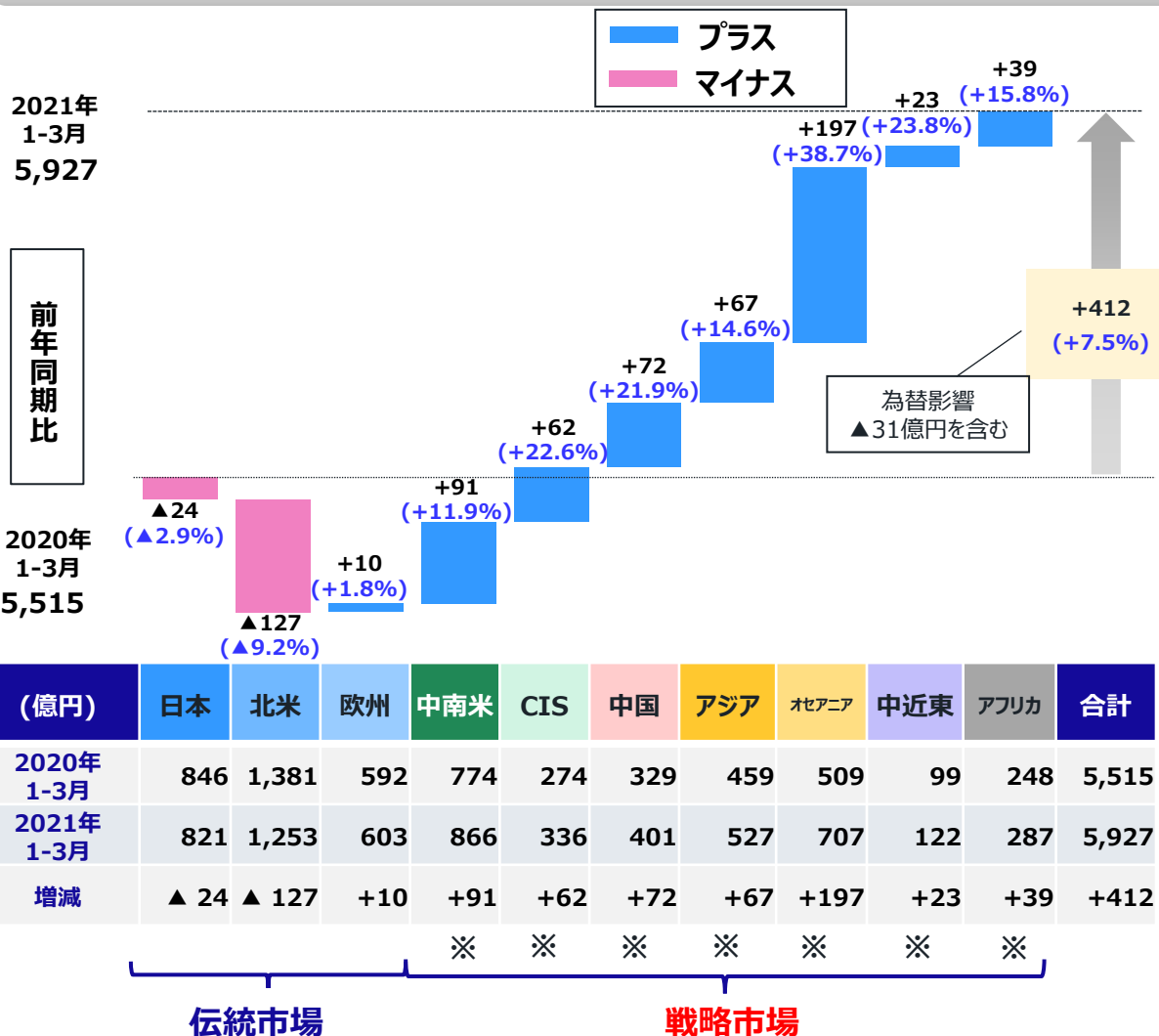
金額単位：億円	2020年1-3月		2021年1-3月		前年同期比			
					増減		増減率	
売上高	6,174		6,762		+587		+9.5%	
建設機械・車両	(5,515)	5,531	(5,927)	5,941	(+412)	+410	(+7.5%)	+7.4%
リテールファイナンス	(157)	179	(146)	168	(▲10)	▲11	(▲6.7%)	▲6.2%
産業機械他	(501)	505	(687)	692	(+185)	+186	(+37.0%)	+36.9%
消去	▲43		▲41		+2		-	
セグメント利益	□ 8.2%	507	□ 9.5%	641	□ +1.3ポイント	+133	+26.3%	
建設機械・車両	□ 8.0%	444	□ 9.1%	538	□ +1.1ポイント	+93	+21.1%	
リテールファイナンス	□ 9.9%	17	□ 14.2%	23	□ +4.3ポイント	+6	+35.2%	
産業機械他	□ 8.0%	40	□ 10.6%	73	□ +2.6ポイント	+32	+80.8%	
消去または全社	4		5		+0		-	

各セグメントの状況：

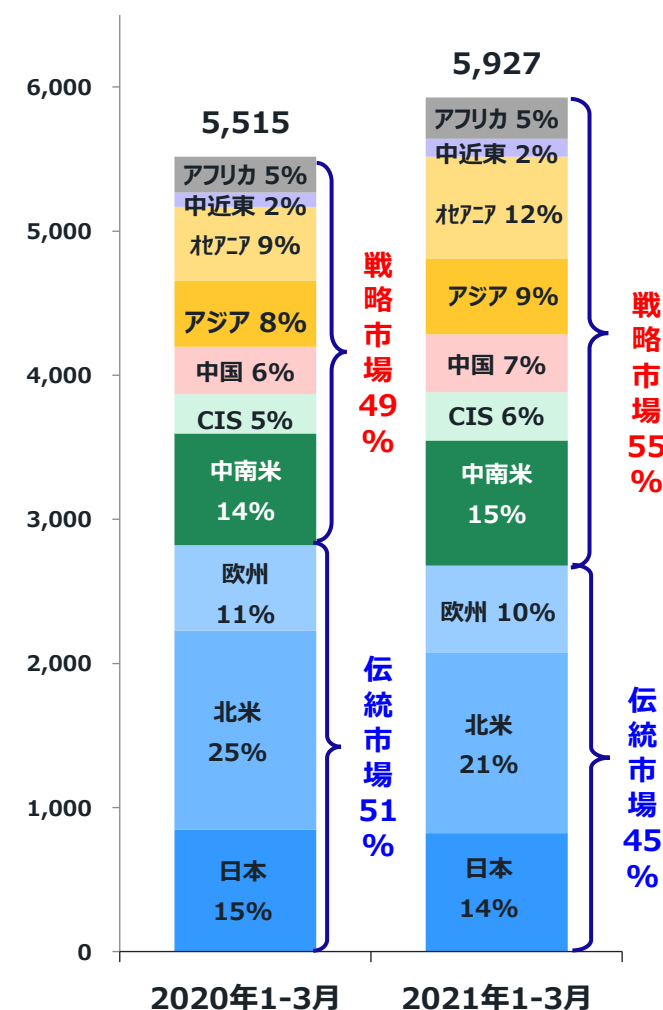
- 建設機械・車両
為替差のマイナス影響があったものの、物量増等により増収、物量増および固定費の削減等により増益。
- リテールファイナンス
期末月の新規取組高が多かったため減収、前年同期に鉱山機械向け債権に計上した引当がなくなったこともあり増益。
- 産業機械他
半導体市場向けエキシマレーザー関連の売上が堅調に推移したこと等により増収、増益。

<建設機械・車両> 2020年度 第4四半期（1-3月）の地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比+7.5%増収の5,927億円。
- ・北米、日本を除くすべての地域で増加。
- ・伝統市場の比率は45%に低下。



(金額単位：億円)



2020年度の概況

- ・ 連結売上高は前年比▲10.4%減収の2兆1,895億円。
- ・ 営業利益は前年比▲33.3%減益の1,673億円、売上高営業利益率は▲2.7ポイント低下の7.6%。
- ・ 純利益は前年比▲30.9%減益の1,062億円。

金額単位：億円	2019年度 ¥108.7/USD ¥120.8/EUR ¥15.6/RMB	2020年度 ¥106.0/USD ¥123.4/EUR ¥15.6/RMB	前年比	
			増減	増減率
連結売上高	24,448	21,895	▲ 2,553	▲ 10.4%
セグメント利益	2,550	1,723	▲ 826	▲ 32.4%
その他の営業収益 (▲費用)	▲ 43	▲ 50	▲ 6	-
営業利益	2,507	1,673	▲ 833	▲ 33.3%
売上高営業利益率	10.3%	7.6%	▲ 2.7ポイント	-
その他の収益 (▲費用)	▲ 275	▲ 45	+230	-
税引前純利益	2,231	1,627	▲ 603	▲ 27.0%
当社株主に帰属する当期純利益	1,538	1,062	▲ 476	▲ 30.9%
ROE	8.6%	5.8%	▲ 2.8ポイント	
ネットD/Eレシオ	0.43	0.35	▲ 0.08ポイント	
1株当たり配当金 (円) ※	94円	55円	▲ 39円	
連結配当性向	57.7%	48.9%		

※ 2020年度の1株当たり配当金には、当社創立100周年の記念配当10円を含む。

2020年度の各セグメント売上高と利益

- ・建設機械・車両部門の売上高は前年比▲10.6%減収の1兆9,759億円。セグメント利益は前年比▲36.7%減益の1,437億円。セグメント利益率は▲3.0ポイント低下し7.3%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は前年比▲6.4%減収の663億円。セグメント利益は前年比▲16.6%減益の105億円。
- ・産業機械他部門の売上高は前年比▲3.6%減収の1,712億円。セグメント利益は前年比+19.3%増益の163億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2019年度		2020年度		前年比		
					増減	増減率	
売上高		24,448		21,895		▲ 2,553	▲ 10.4%
建設機械・車両	(22,059)	22,112	(19,612)	19,759	(▲ 2,447)	▲ 2,353	(▲ 11.1%) ▲ 10.6%
リテールファイナンス	(629)	709	(583)	663	(▲ 45)	▲ 45	(▲ 7.3%) ▲ 6.4%
産業機械他	(1,759)	1,775	(1,699)	1,712	(▲ 60)	▲ 63	(▲ 3.4%) ▲ 3.6%
消去		▲ 148		▲ 240		▲ 92	-
セグメント利益	□ 10.4%	2,550	□ 7.9%	1,723	▲ 2.5ポイント	▲ 826	▲ 32.4%
建設機械・車両	□ 10.3%	2,273	□ 7.3%	1,437	▲ 3.0ポイント	▲ 835	▲ 36.7%
リテールファイナンス	□ 17.9%	126	□ 15.9%	105	▲ 2.0ポイント	▲ 20	▲ 16.6%
産業機械他	□ 7.7%	137	□ 9.5%	163	+1.8ポイント	+26	+19.3%
消去または全社		13		16		+2	-

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

物量減および為替のマイナス影響により減収、物量減や構成差、為替のマイナス影響等により減益。

■ リテールファイナンス

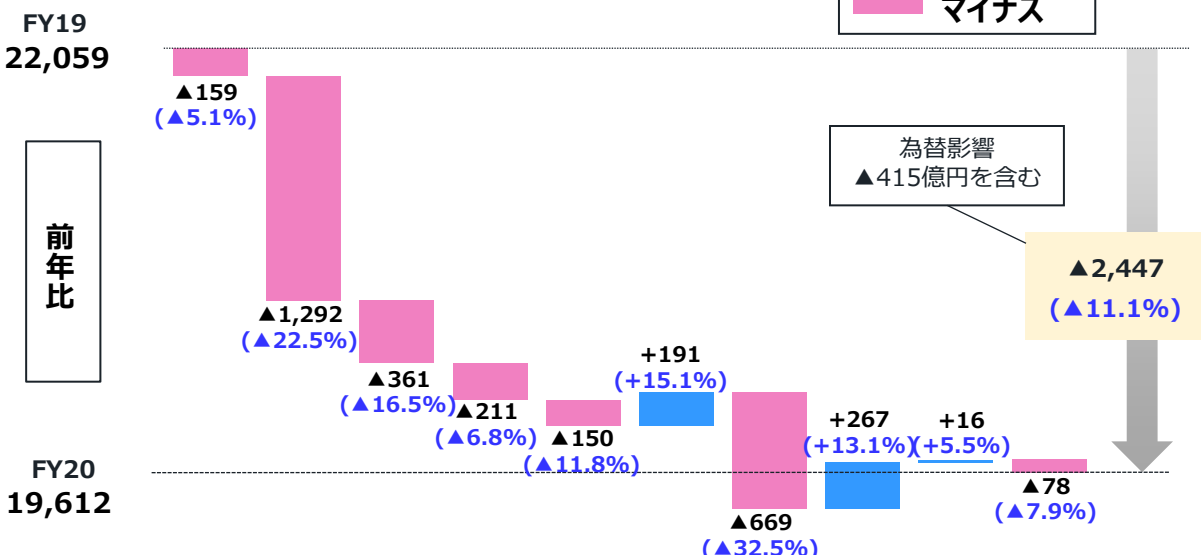
新規取組高の減少等により減収、売上の減少に加え、支払猶予の影響やリースアップ車の評価の見直し等により減益。

■ 産業機械他

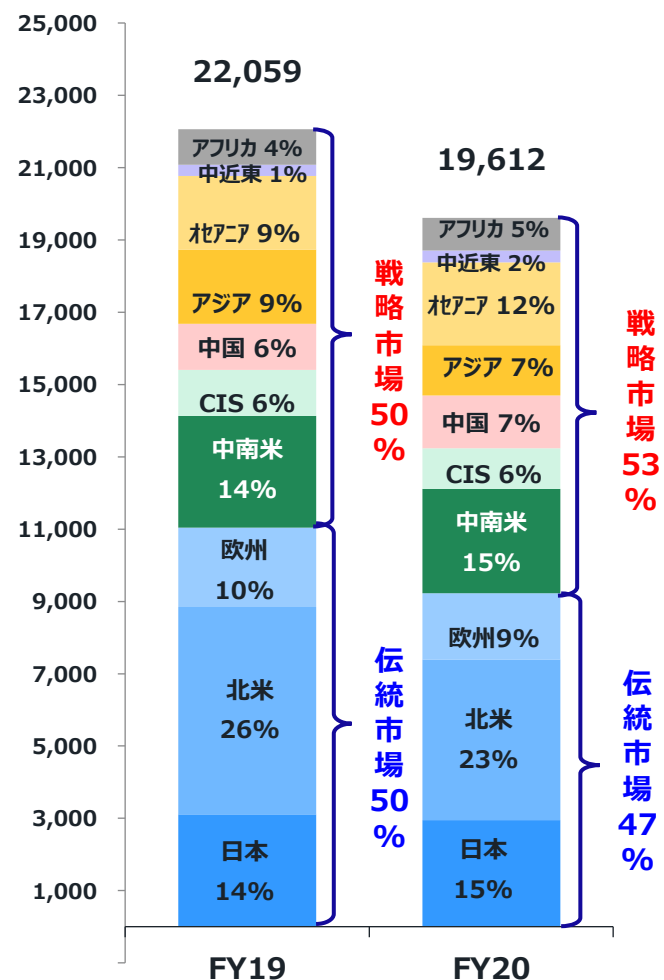
自動車業界向け鍛圧機械、工作機械の需要の減少、据付作業の遅延等に伴い減収、半導体市場向けエキシマレーザー関連の売上が堅調に推移したこと等により増益。

<建設機械・車両> 2020年度地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は前年比▲11.1%減収の1兆9,612億円。
- ・北米、アジア、欧州等で減少。オセアニア、中国等で増加。
- ・伝統市場の比率は47%に低下。



(金額単位：億円)



(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
2019年度	3,108	5,735	2,197	3,092	1,274	1,270	2,057	2,033	306	982	22,059
2020年度	2,948	4,443	1,835	2,880	1,123	1,462	1,387	2,301	323	904	19,612
増減	▲159	▲1,292	▲361	▲211	▲150	+191	▲669	+267	+16	▲78	▲2,447

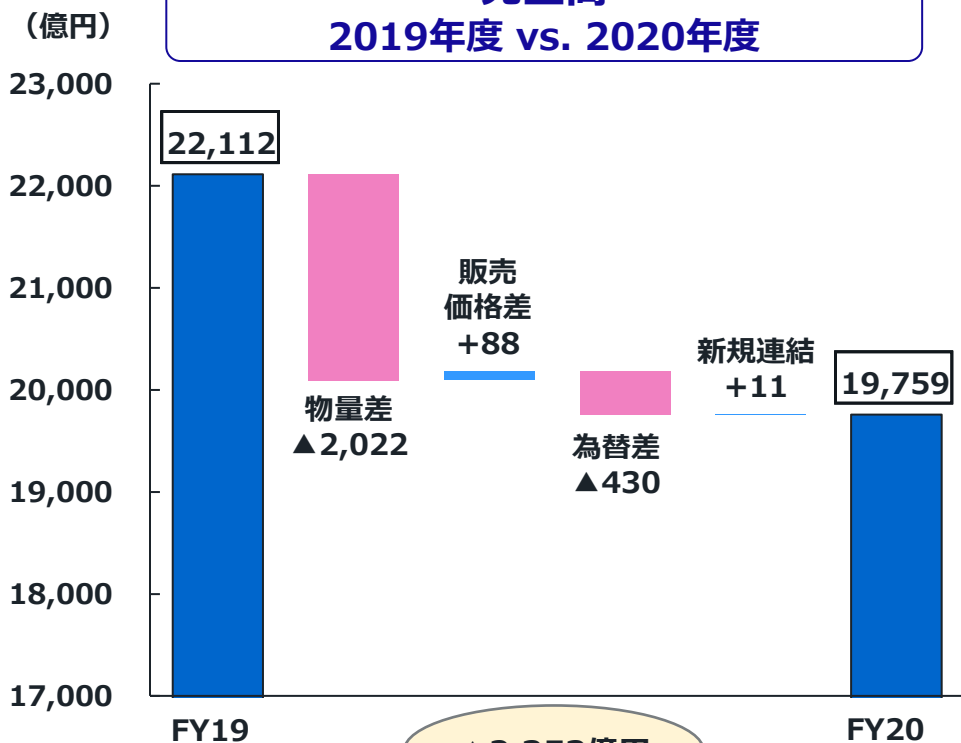
伝統市場 戦略市場

※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

<建設機械・車両> 2020年度の売上高とセグメント利益の増減要因

- ・売上高は、物量の減少および為替のマイナス影響により、前年比▲2,353億円の減収。
- ・セグメント利益は、物量減や構成差、為替のマイナス影響を固定費の削減で一部吸収したが、前年比▲835億円の減益。
- ・売上高セグメント利益率は前年比▲3.0ポイント低下の7.3%

売上高 2019年度 vs. 2020年度

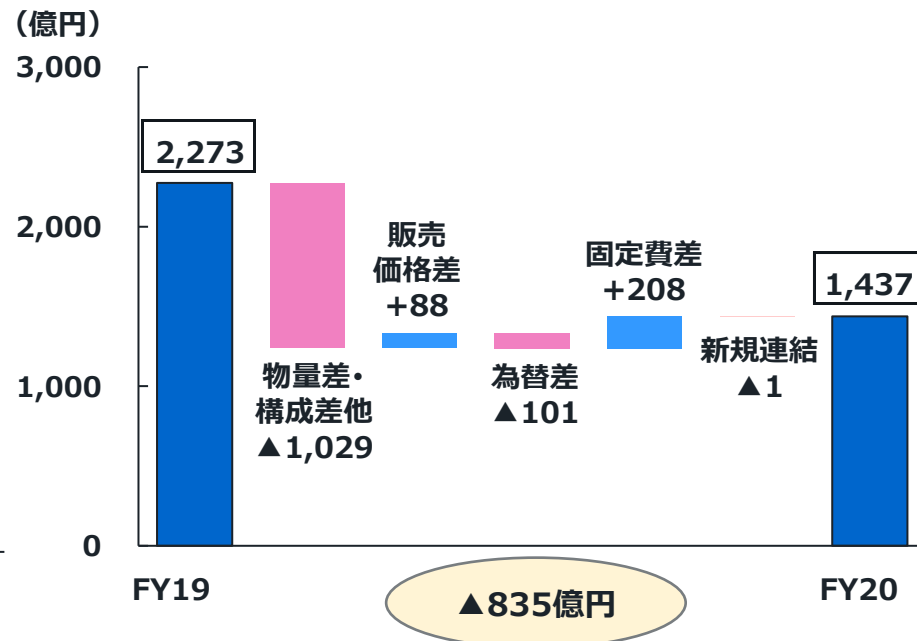


¥108.7/USD
¥120.8/EUR
¥15.6/RMB

プラス要因
マイナス要因

¥106.0/USD
¥123.4/EUR
¥15.6/RMB

セグメント利益 2019年度 vs. 2020年度



10.3%

プラス要因
マイナス要因

売上高セグメント利益率

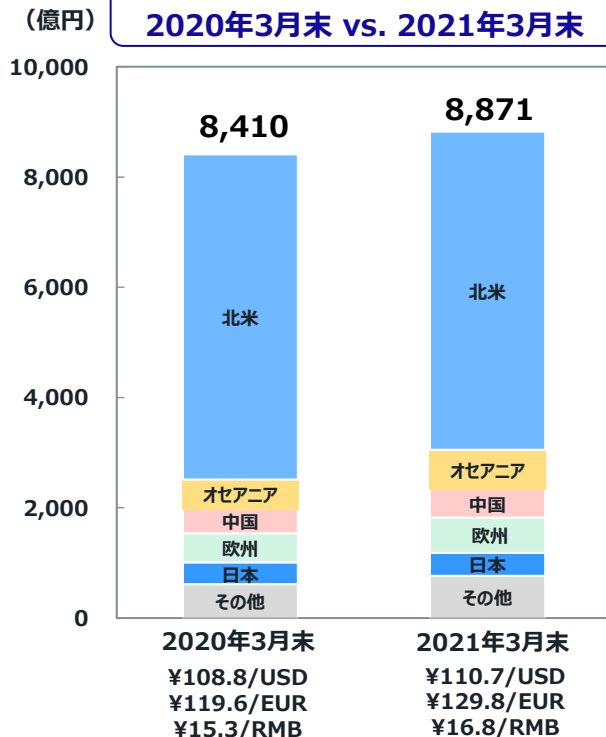
7.3%

<リテールファイナンス> 2020年度の状況

- ・資産は、主に為替の影響により、前年度末比増加。
- ・新規取組高は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による販売減により、主に北米で前年比減少。
- ・売上高は、新規取組高の減少等により、前年比減収。
- ・セグメント利益は、売上高の減少に加え、支払猶予の影響や、リースアップ車の評価の見直し等により、前年比減益。

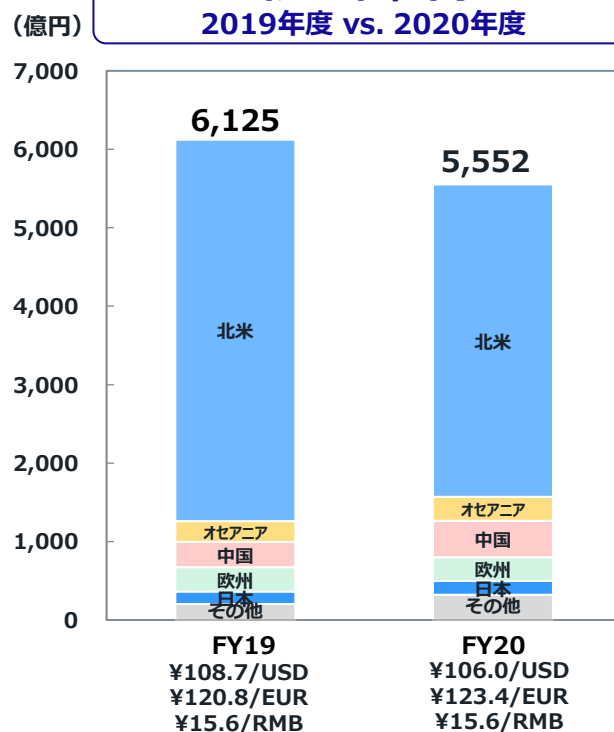
資産

2020年3月末 vs. 2021年3月末



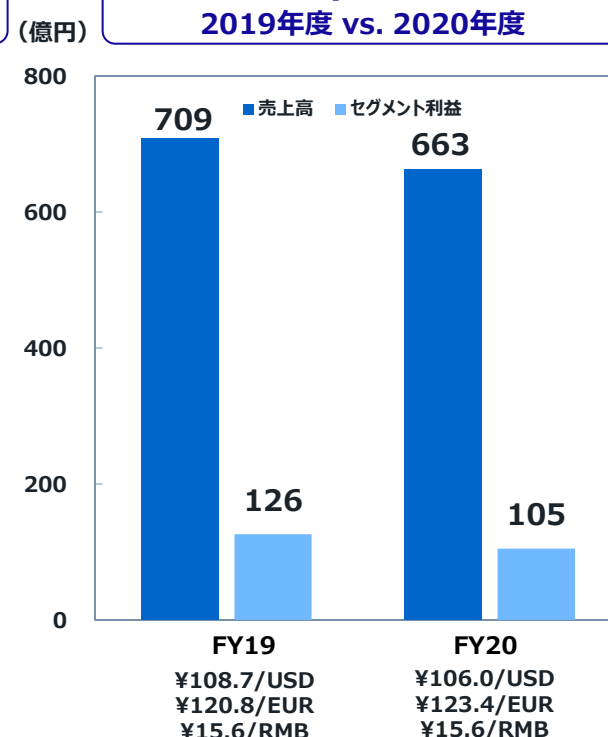
新規取組高

2019年度 vs. 2020年度



収益

2019年度 vs. 2020年度



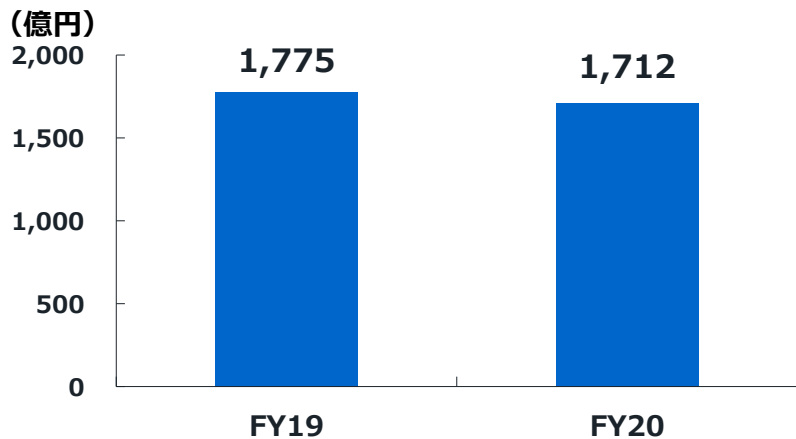
金額単位：億円	2020年3月末	2021年3月末	前年度末比
借入金	6,480	6,747	+267
ネットベースの借入金	6,424	6,723	+299
ネットD/Eレシオ	3.80	3.69	▲0.11ポイント

	2019年度	2020年度	前年比
ROA	1.5%	1.2%	▲0.3%

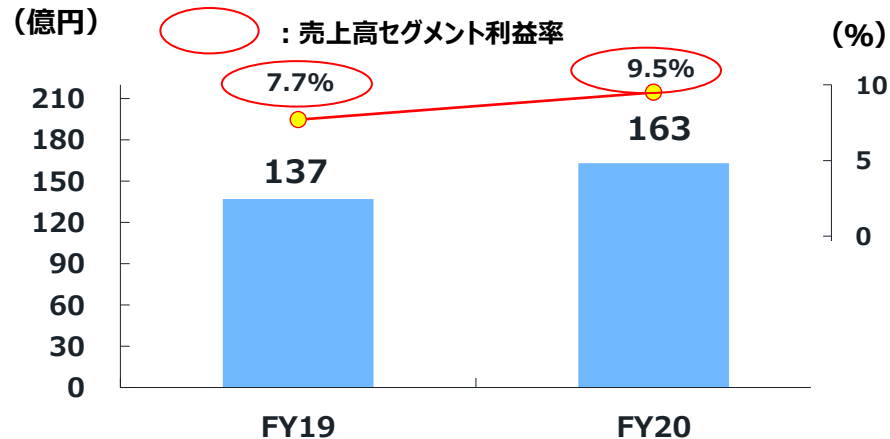
＜産業機械他＞ 2020年度の売上高とセグメント利益

- ・売上高は自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の需要の減少、据付作業の遅延等により、前年比▲3.6%減収の1,712億円。
- ・セグメント利益は前年比+19.3%の増益の163億円。
- ・売上高セグメント利益率は9.5%。

売上高
2019年度 vs. 2020年度



セグメント利益
2019年度 vs. 2020年度



売上高の内訳

(億円)	2019年度	2020年度	前年比	
			増減	増減率
コマツ産機	550	500	▲50	▲9.1%
コマツNTC	483	302	▲181	▲37.4%
ギガフォトン	350	412	+61	+17.5%
その他	390	497	+106	+27.3%
合計	1,775	1,712	▲63	▲3.6%

連結貸借対照表

- ・総資産は前年度末比+1,311億円増加の3兆7,848億円。売上債権が増加、棚卸資産は減少。
- ・株主資本比率は前年度末比+2.0ポイント上昇の50.5%。

金額単位：億円 ○：ネットD/Eレシオ	2020年3月末 ¥108.8/USD ¥119.6/EUR ¥15.3/RMB	2021年3月末 ¥110.7/USD ¥129.8/EUR ¥16.8/RMB	増減
現金・預金（含む定期預金） [a]	2,496	2,431	▲ 65
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	11,653	12,675	+1,022
棚卸資産	8,053	7,938	▲ 114
有形固定資産	7,576	7,873	+296
その他資産	6,757	6,929	+172
資産合計	36,536	37,848	+1,311
支払手形・買掛金	2,201	2,583	+381
借入金・社債 [b]	10,123	9,099	▲ 1,023
その他負債	5,649	6,045	+395
負債合計	17,974	17,728	▲ 246
（株主資本比率）	（48.5%）	（50.5%）	（+2.0ポイント）
株主資本	17,716	19,122	+1,406
非支配持分	846	997	+151
負債及び純資産合計	36,536	37,848	+1,311
ネットバースの借入金・社債 [b-a]	0.43 7,627	0.35 6,668	▲ 958
ネットD/Eレシオ（リテールファイナンス会社を除いた場合）	0.08	▲0.00	

IV.2021年度の業績見通し

2021年度の業績見通し（概要）

- ・ 連結売上高は前年比+12.8%増収の2兆4,690億円。
- ・ 営業利益は前年比+34.5%増益の2,250億円、売上高営業利益率は+1.5ポイント上昇の9.1%。
- ・ 純利益は前年比+37.4%増益の1,460億円。

金額単位：億円	2020年度 ¥106.0/USD ¥123.4/EUR ¥15.6/RMB	2021年度 (見通し) ¥105.0/USD ¥124.0/EUR ¥16.0/RMB	前年比	
			増減	増減率
連結売上高	21,895	24,690	+2,794	+12.8%
セグメント利益	1,723	2,250	+526	+30.6%
その他の営業収益(▲費用)	▲ 50	0	+50	-
営業利益	1,673	2,250	+576	+34.5%
売上高営業利益率	7.6%	9.1%	+1.5ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲ 45	▲ 80	▲ 34	-
税引前純利益	1,627	2,170	+542	+33.3%
当社株主に帰属する当期純利益	1,062	1,460	+397	+37.4%
ROE	5.8%	7.6%	+1.8ポイント	
1株当たり配当金（円）※	55円	62円	+7円	
連結配当性向	48.9%	40.1%		

※ 2020年度の1株当たり配当金には、当社創立100周年の記念配当10円を含む。

2021年度の各セグメント売上高と利益の見通し

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年比+13.5%増収の2兆2,430億円。
セグメント利益は前年比+37.7%増益の1,980億円。セグメント利益率は+1.5ポイント上昇し8.8%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年比+2.4%増収の680億円。セグメント利益は前年比+13.5%増益の120億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年比+2.2%増収の1,750億円。セグメント利益は前年比+4.0%増益の170億円。

☐ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

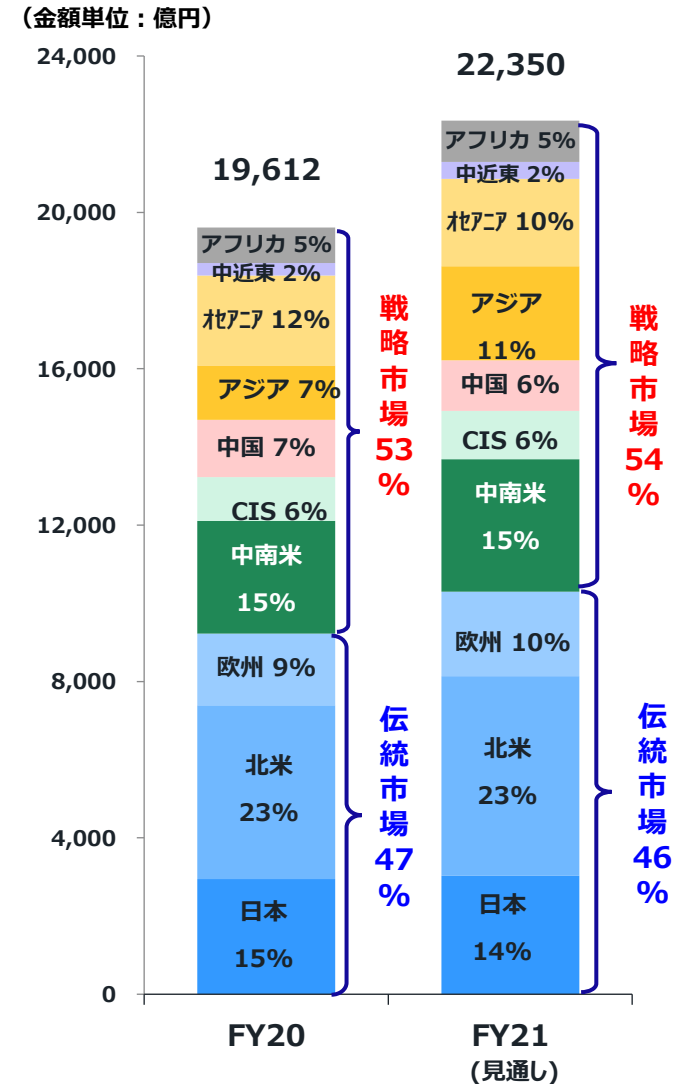
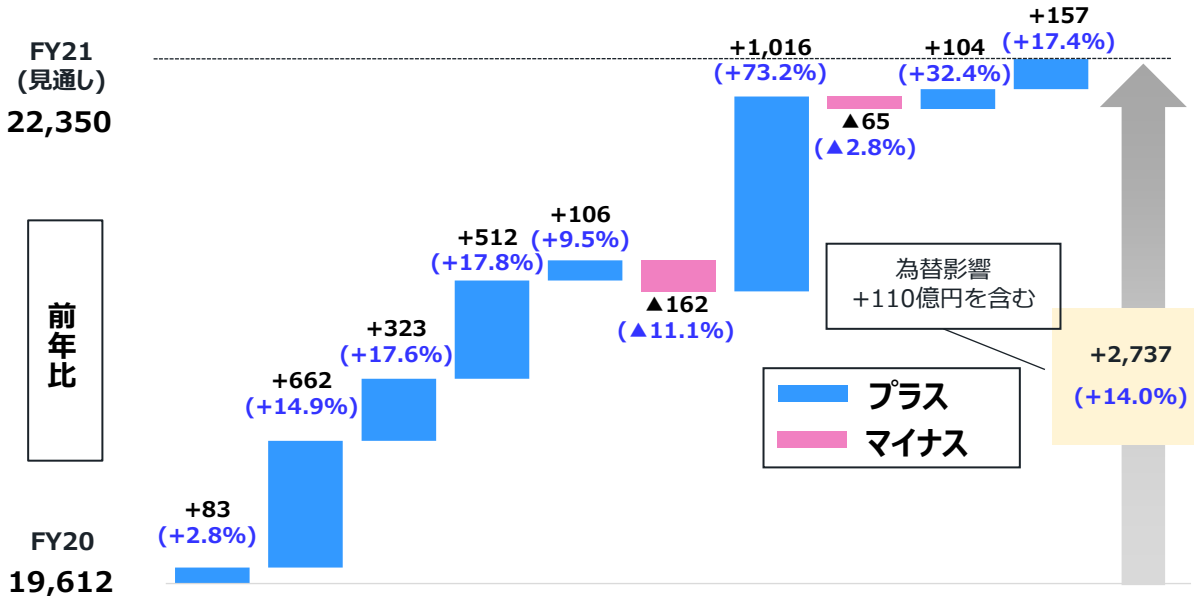
金額単位：億円	2020年度		2021年度 (見通し)		前年比			
					増減		増減率	
売上高	21,895		24,690		+2,794		+12.8%	
建設機械・車両	(19,612)	19,759	(22,350)	22,430	(+2,737)	+2,670	(+14.0%)	+13.5%
リテールファイナンス	(583)	663	(600)	680	(+16)	+16	(+2.8%)	+2.4%
産業機械他	(1,699)	1,712	(1,740)	1,750	(+40)	+37	(+2.4%)	+2.2%
消去	▲ 240		▲ 170		+70		-	
セグメント利益	☐ 7.9%	1,723	☐ 9.1%	2,250	☐ +1.2ポイント	+526	+30.6%	
建設機械・車両	☐ 7.3%	1,437	☐ 8.8%	1,980	☐ +1.5ポイント	+542	+37.7%	
リテールファイナンス	☐ 15.9%	105	☐ 17.6%	120	☐ +1.7ポイント	+14	+13.5%	
産業機械他	☐ 9.5%	163	☐ 9.7%	170	☐ +0.2ポイント	+6	+4.0%	
消去または全社	16		▲ 20		▲ 36		-	

各セグメントの状況：

- 建設機械・車両
物量増および販売価格のプラス影響等により増収、増益。
- リテールファイナンス
新規取組の増加により増収。売上高の増加に伴い増益。
- 産業機械他
自動車業界向けの工作機械の販売および半導体市場向けエキシマレーザー関連等の販売増加により増収、増益。

<建設機械・車両> 2021年度地域別売上高（外部顧客向け）の見通し

- 外部顧客向け売上高は前年比+14.0%増収の2兆2,350億円の見通し。
- 中国、オセアニアを除くすべての地域で増加。
- 伝統市場の比率は46%に低下。



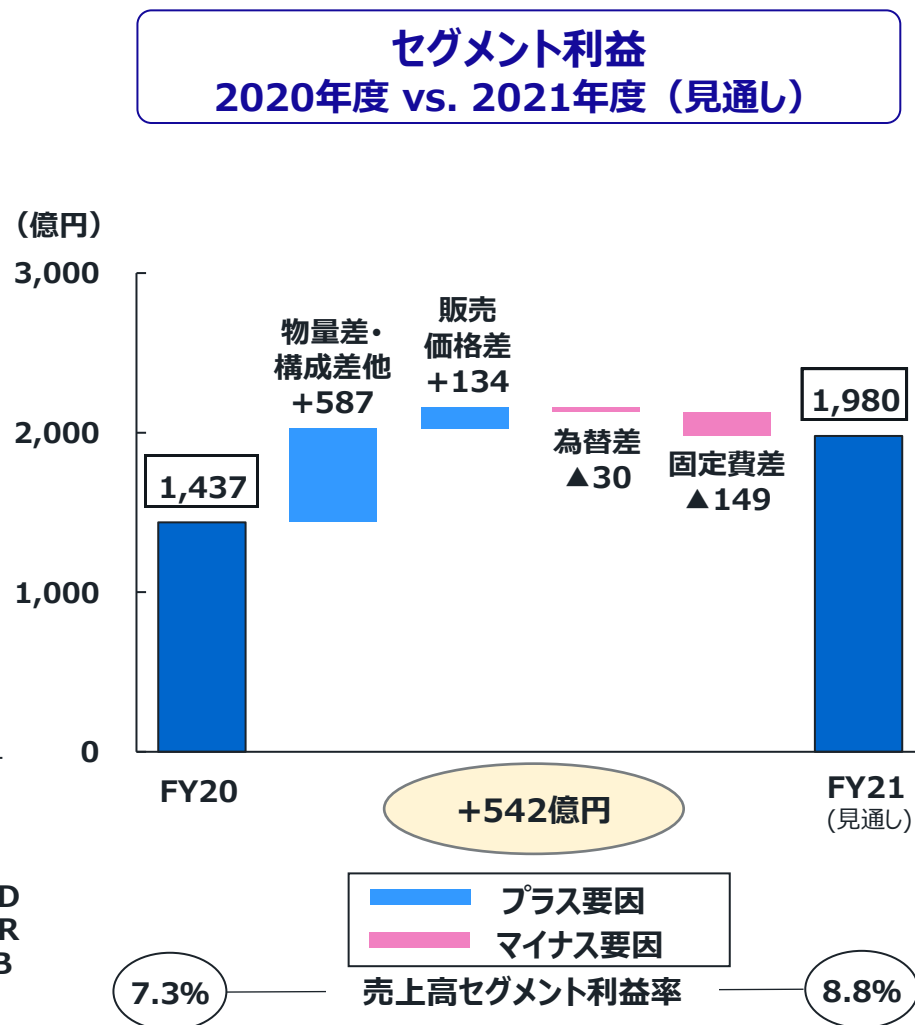
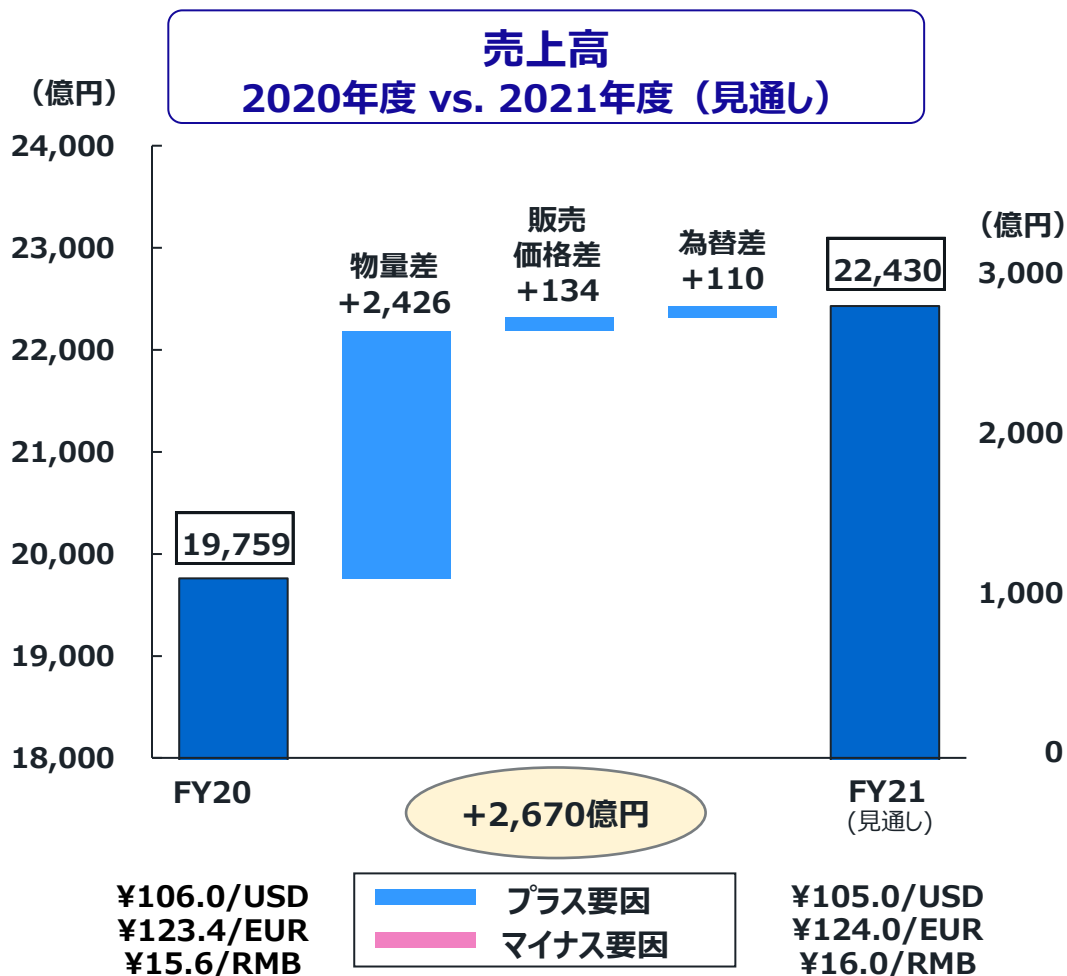
(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
2020年度	2,948	4,443	1,835	2,880	1,123	1,462	1,387	2,301	323	904	19,612
2021年度	3,032	5,106	2,159	3,393	1,230	1,300	2,404	2,236	428	1,062	22,350
増減	+83	+662	+323	+512	+106	▲162	+1,016	▲65	+104	+157	+2,737
	※	※	※	※	※		※		※	※	

伝統市場

戦略市場

<建設機械・車両> 2021年度の売上高とセグメント利益の増減要因の見通し

- ・売上高は、物量増や販売価格のプラス影響等により、前年比+2,670億円の増収。
- ・セグメント利益は、物量増や販売価格のプラス影響等により、前年比+542億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年比+1.5ポイント上昇の8.8%

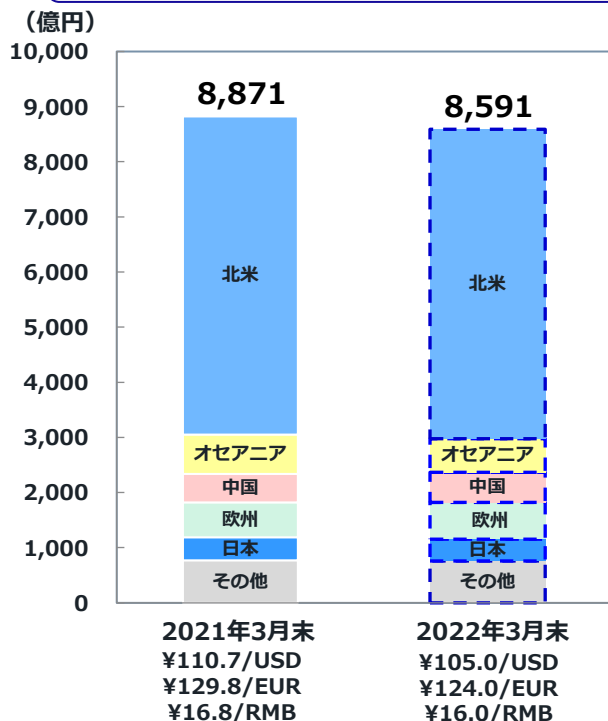


<リテールファイナンス> 2021年度の見通し

- ・資産は、主に為替の影響により前年度末比減少。
- ・新規取組高は、北米、欧州等にて取組拡大し、前年比増加の見通し。
- ・売上高は、新規取組高の増加等により、前年比増収。
- ・セグメント利益は、売上高の増加に加え、前年度にあった支払い猶予の影響が無くなること等により、前年比増益の見通し。

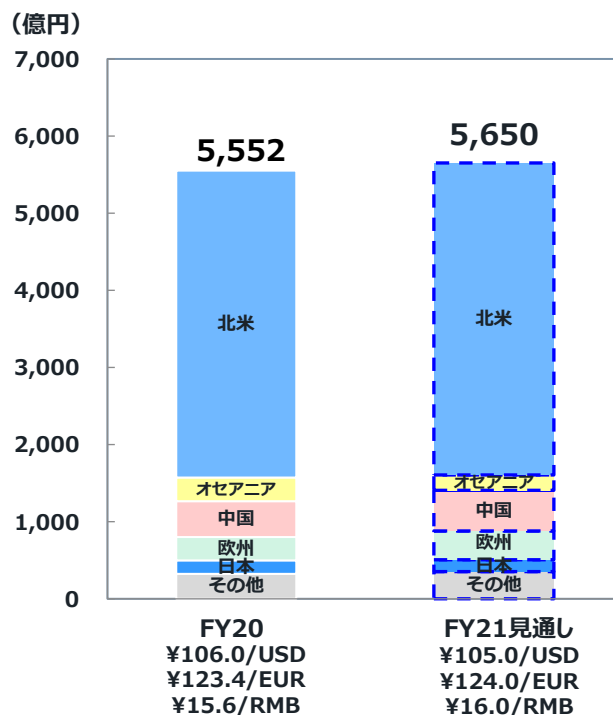
資産

2021年3月末 vs. 2022年3月末 (見通し)



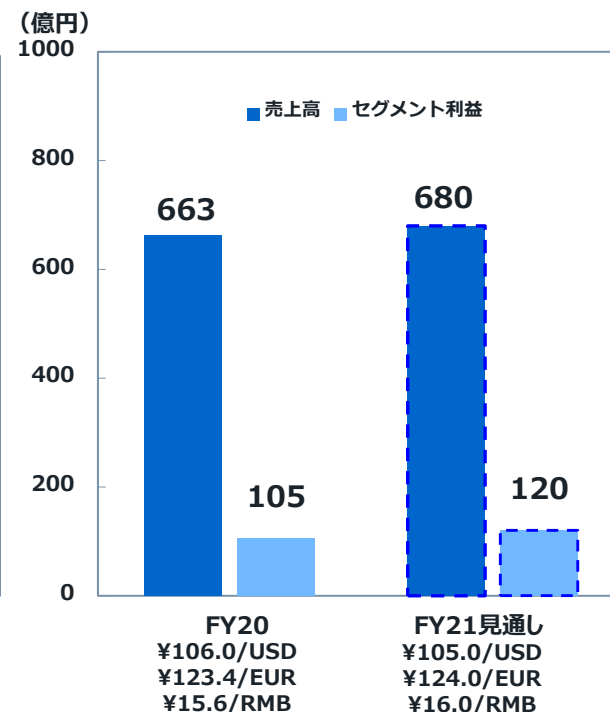
新規取組高

2020年度 vs. 2021年度 (見通し)



収益

2020年度 vs. 2021年度 (見通し)



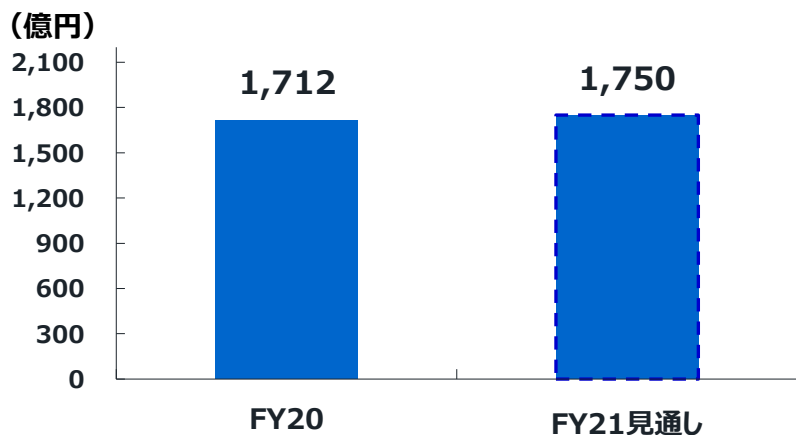
金額単位：億円	2021年3月末	2022年3月末 (見通し)	前年度末比
借入金	6,747	6,897	+150
ネットベースの借入金	6,723	6,825	+102
ネットD/エレシオ	3.69	3.94	+0.25ポイント

	2020年度	2021年度 (見通し)	前年比
ROA	1.2%	1.4%	+0.2%

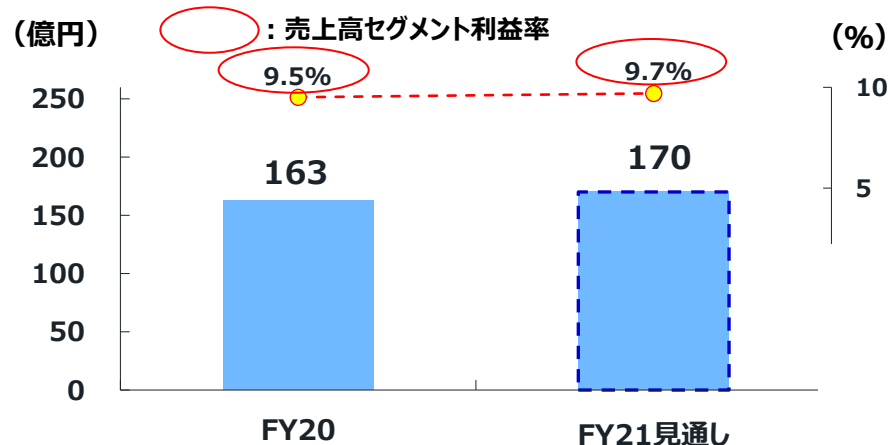
<産業機械他> 2021年度の売上高とセグメント利益の見通し

・売上高は前年比+2.2%増収の1,750億円、セグメント利益は前年比+4.0%増益の170億円となる見通し。

売上高
2020年度 vs. 2021年度 (見通し)



セグメント利益
2020年度 vs. 2021年度 (見通し)



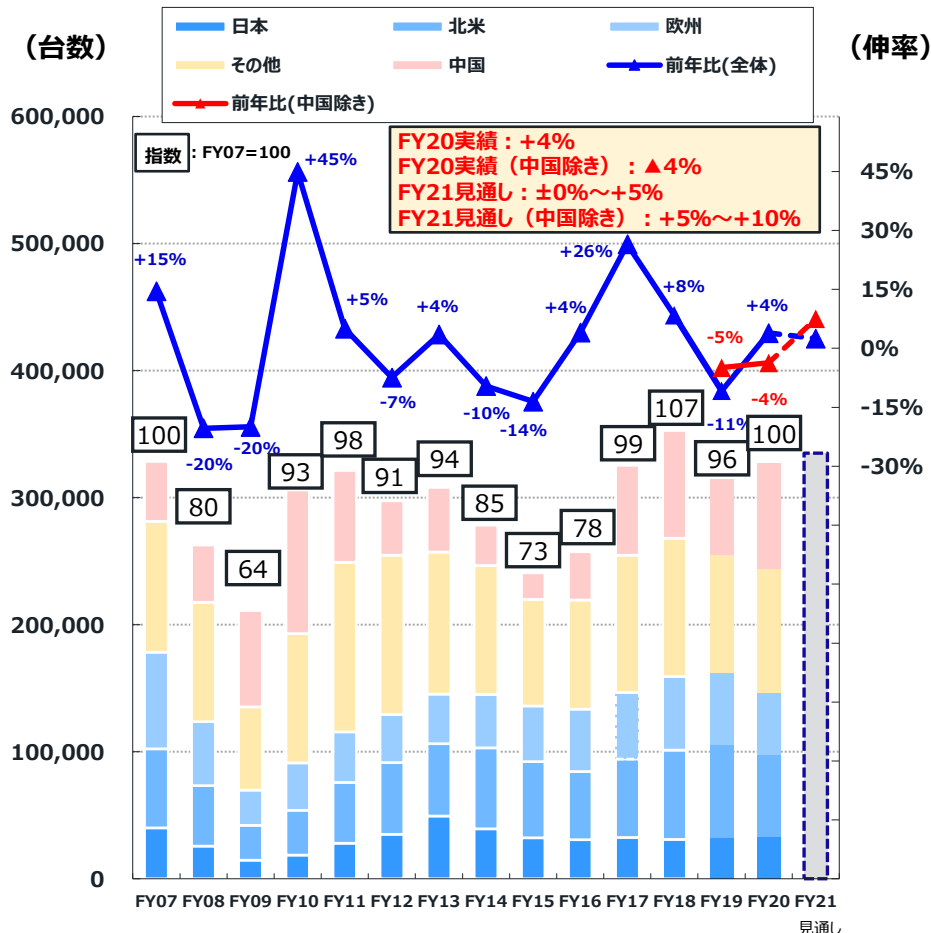
売上高の内訳

(億円)	2020年度	2021年度 (見通し)	前年比	
			増減	増減率
コマツ産機	500	489	▲10	▲2.1%
コマツNTC	302	410	+108	+35.8%
ギガフォトン	412	442	+30	+7.4%
その他	497	406	▲90	▲18.2%
合計	1,712	1,750	+37	+2.2%

<建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し

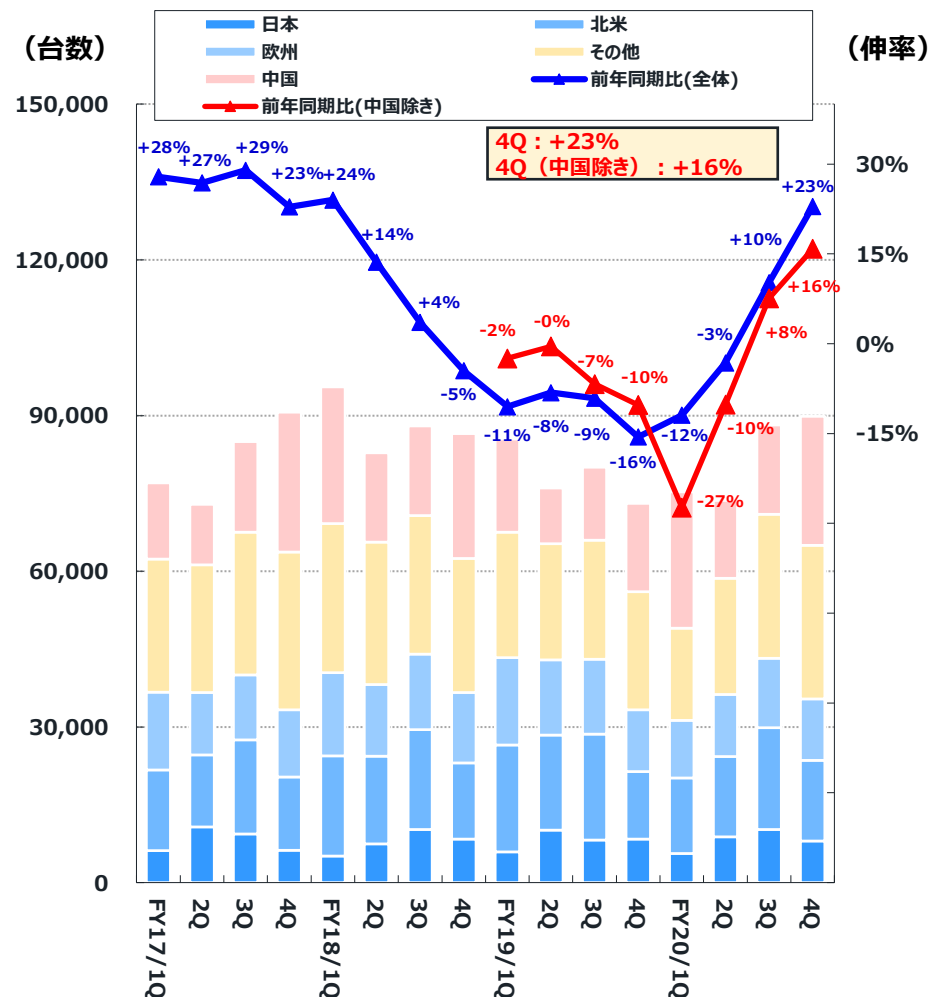
- ・2020年度の需要は、前年比+4%増加。中国を除く地域では前年比▲4%の減少。
- ・2021年度の需要は、前年比±0%～+5%、中国を除く地域では前年比+5%～+10%増加の見通し。

主要7建機 年度別需要推移



【出所】 主要7建機需要：コマツの推定

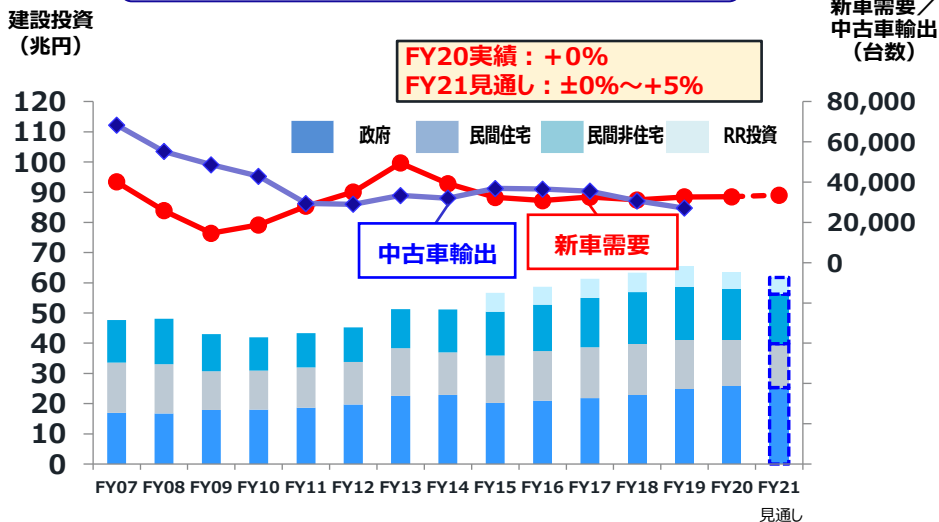
主要7建機 四半期別需要推移



＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し：①日本

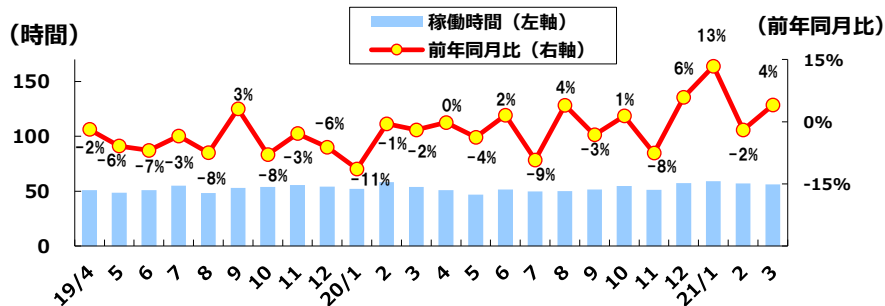
- ・2020年度の需要は、前年並み。
- ・2021年度の需要は、前年比±0%～+5%の見通し。

新車需要（主要7建機）と建設投資

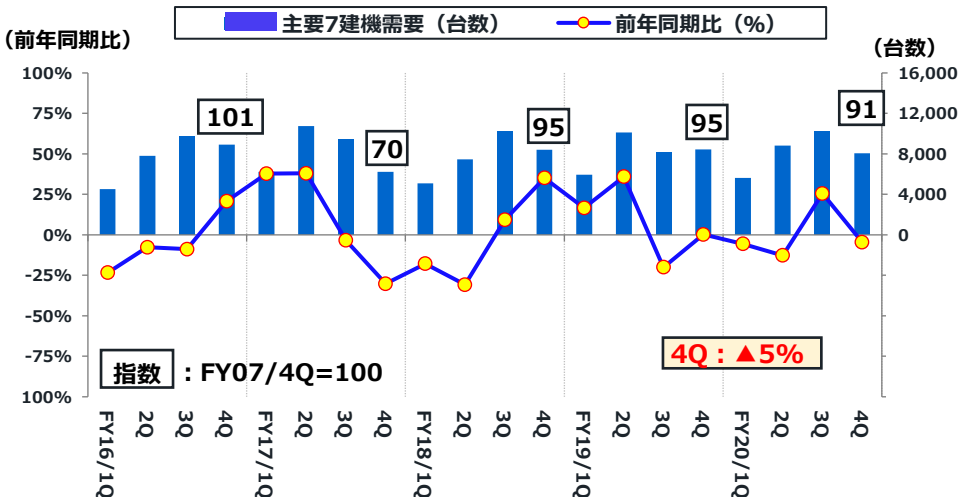


【出所】主要7建機需要：コマツの推定 中古車輸出量：コマツの推定
建設投資：国土交通省／建設経済研究所

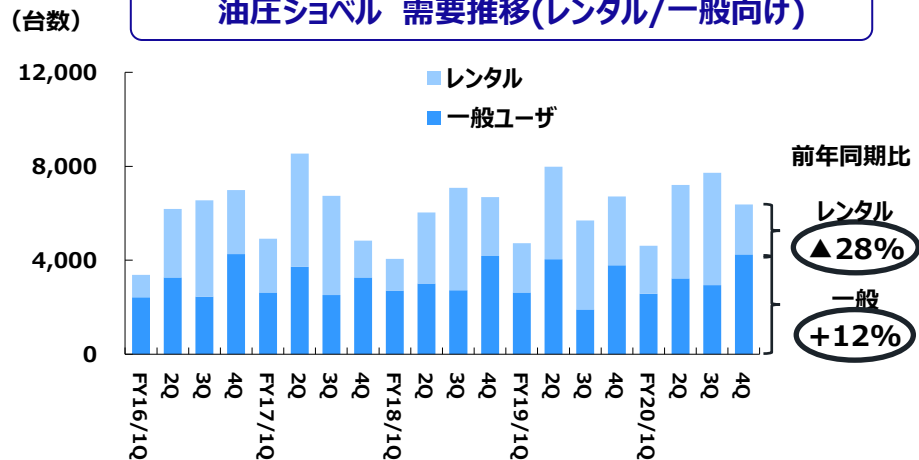
Komtrax(日本) 月平均稼働時間推移



主要7建機 四半期別需要推移



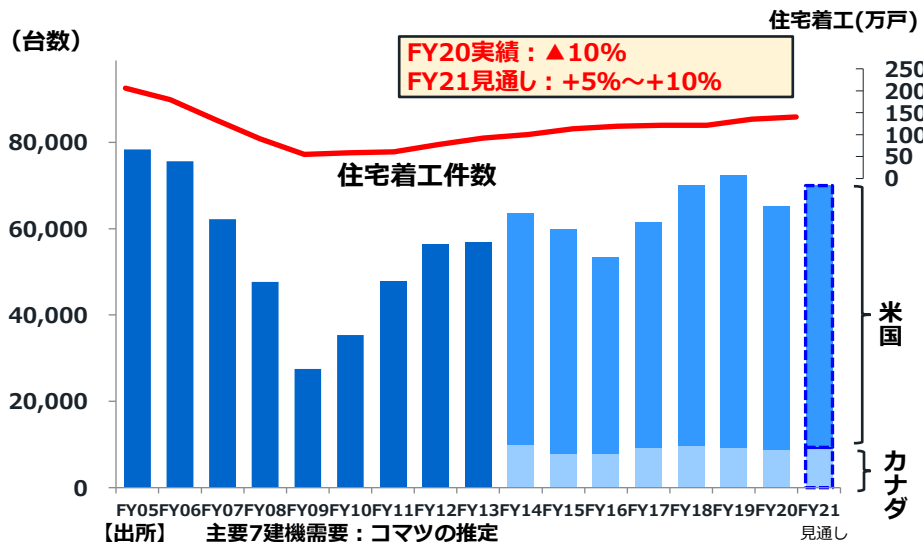
油圧ショベル 需要推移(レンタル/一般向け)



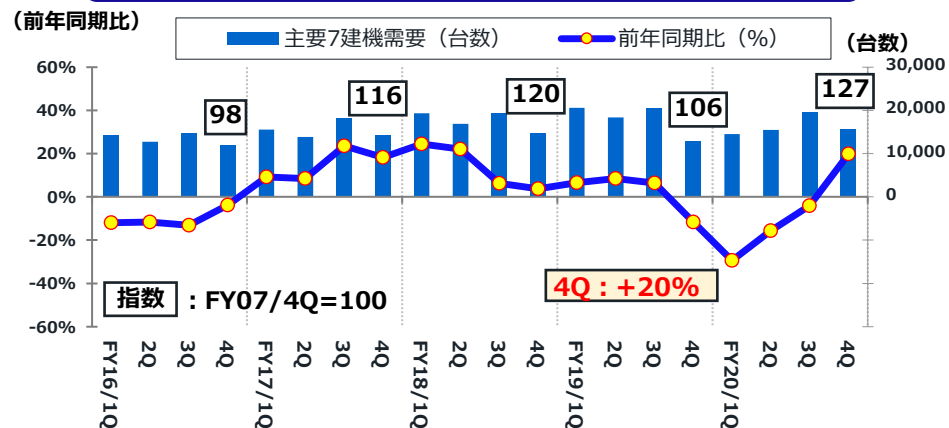
<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：②北米

- ・2020年度の需要は、前年比▲10%減少。
- ・2021年度の需要は、前年比+5%~+10%の見通し。
- ・住宅・非住宅、道路交通向けが堅調に推移。

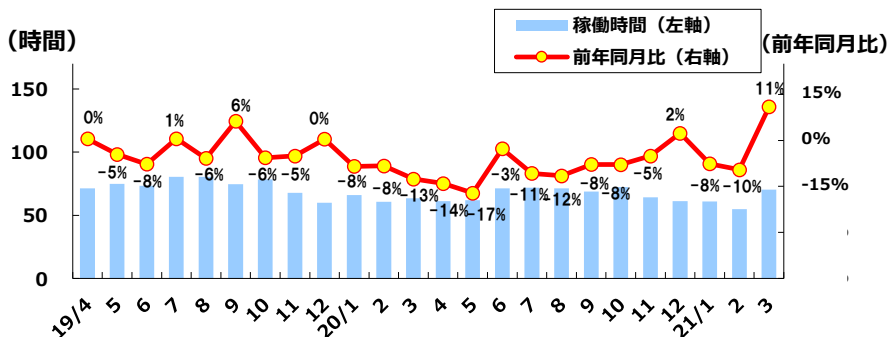
主要7建機 需要推移と住宅着工件数



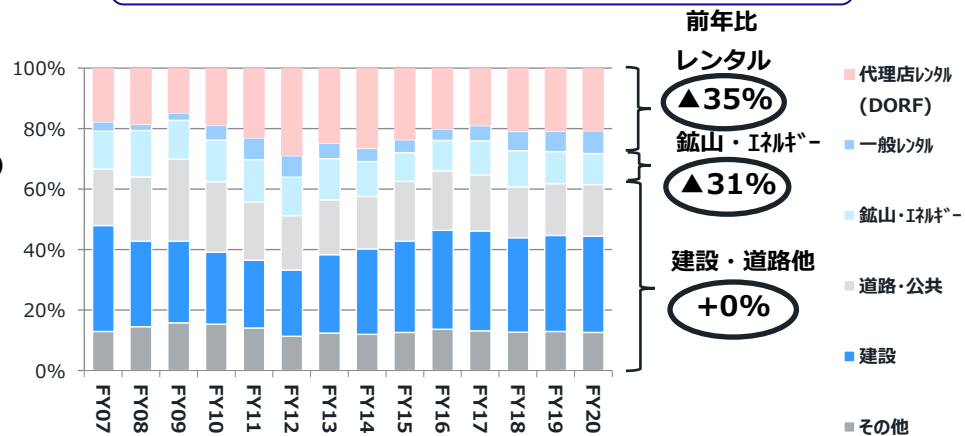
主要7建機 四半期需要推移



Komtrax (北米) 月平均稼働時間推移



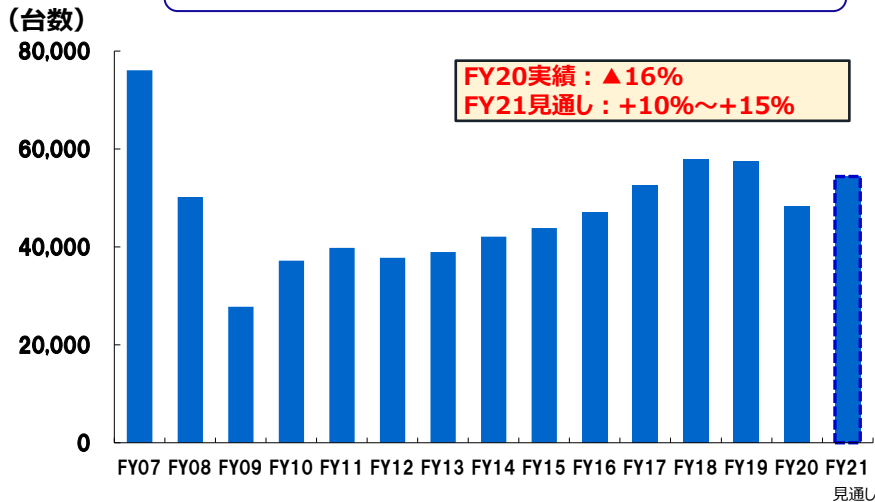
セグメント別需要構成比 (台数ベース)



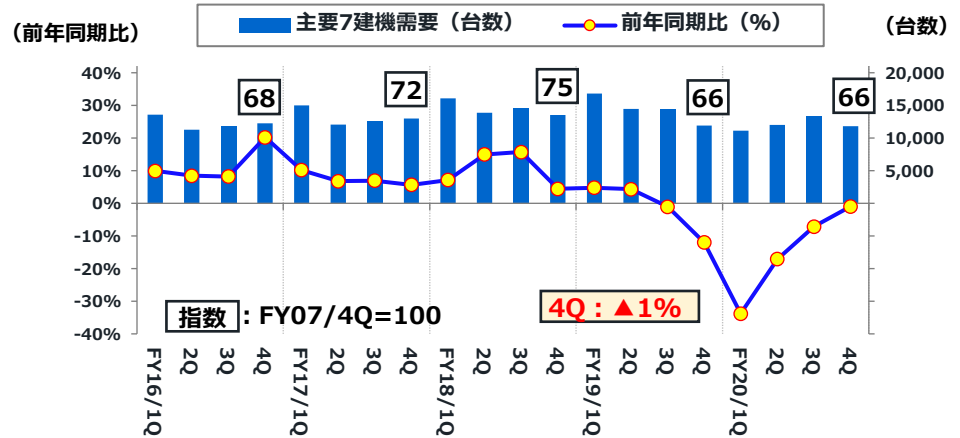
＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し： ③ 欧州

- ・2020年度の需要は、前年比▲16%減少。
- ・2021年度の需要は、前年比+10%～+15%の見通し。
- ・インフラプロジェクト再開による需要の回復が継続。

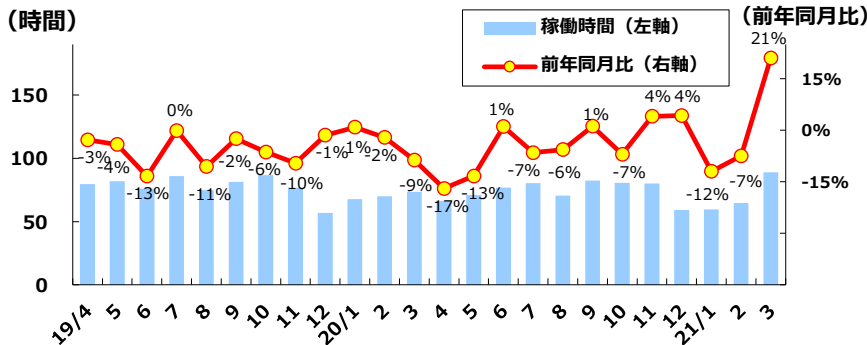
主要7建機 年度別需要推移



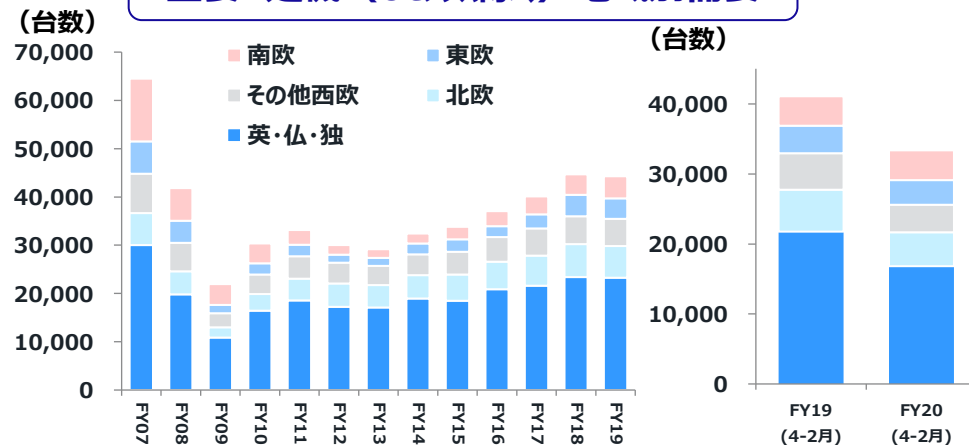
主要7建機 四半期需要推移



Komtrax (欧州) 月平均稼働時間推移



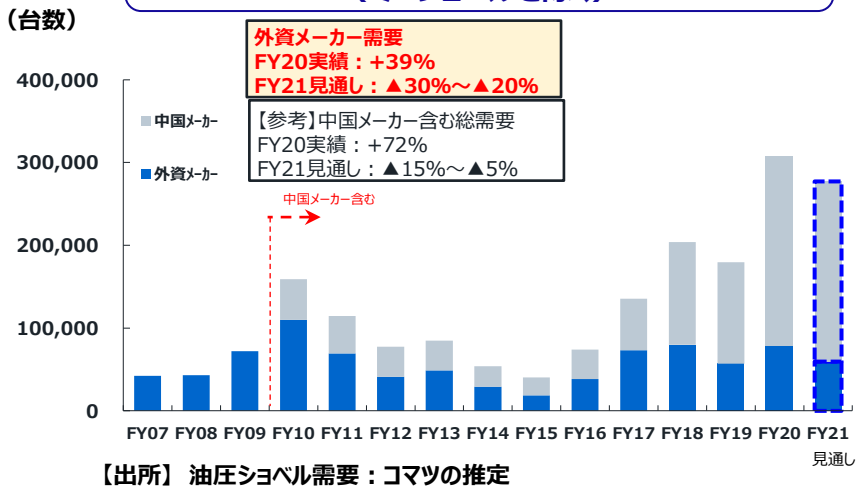
主要7建機 (6tクラス除く) 地域別需要



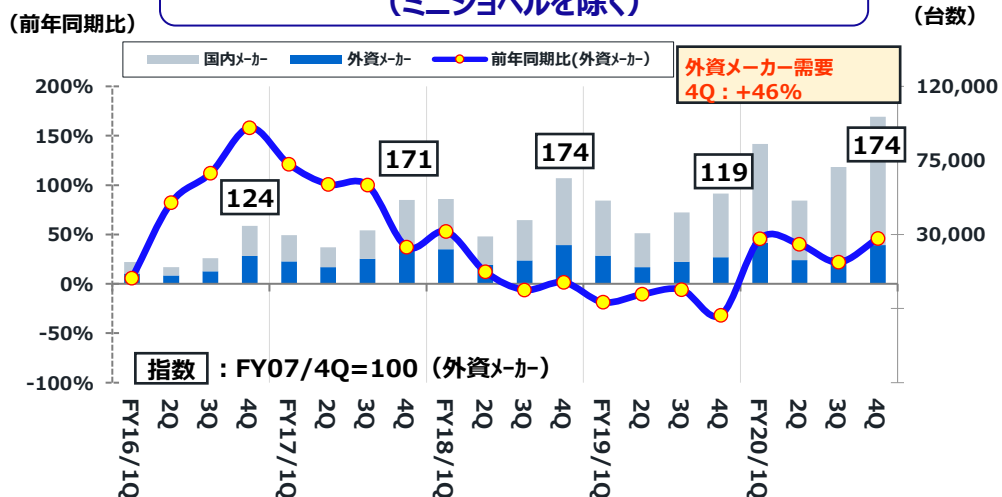
<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：④ 中国

- ・2020年度の需要は、前年比+39%増加。
- ・2021年度の需要は、前年比▲30%～▲20%の見通し。
- ・春節明けのセールスシーズンずれ込みの影響が無くなることから前年比マイナス。

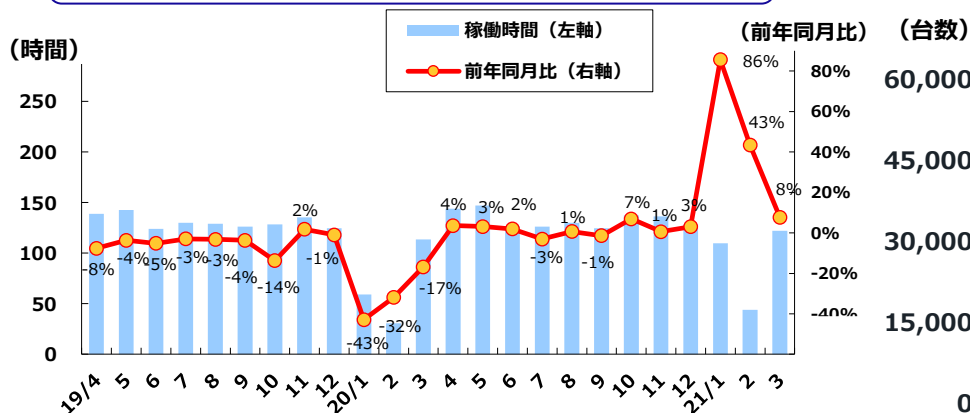
油圧ショベル 年度別需要推移 (ミニショベルを除く)



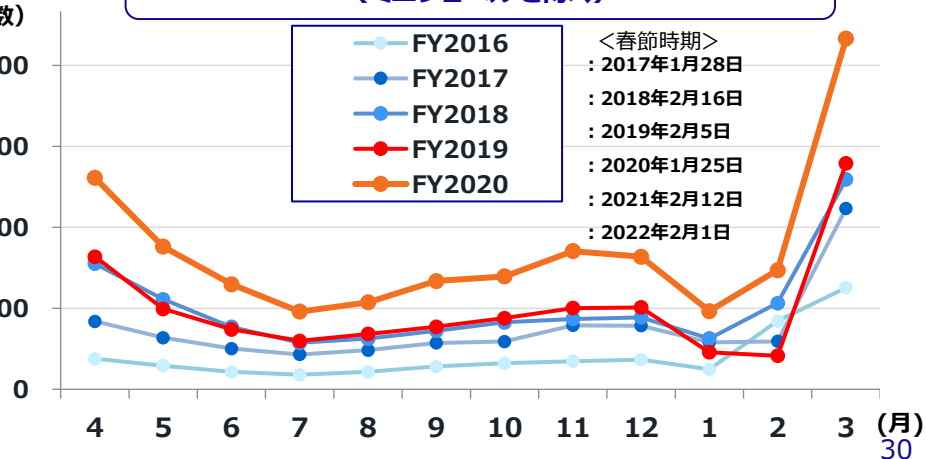
油圧ショベル 四半期需要推移 (ミニショベルを除く)



Komtrax (中国) 月平均稼働時間推移



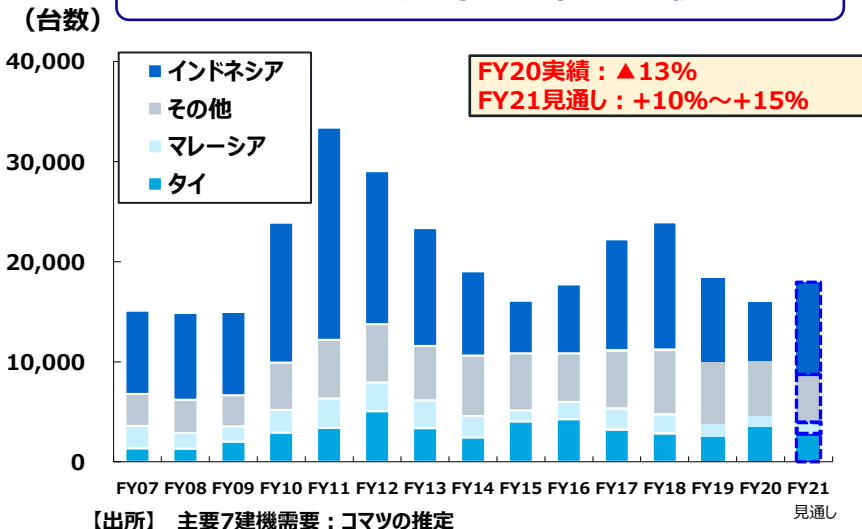
中国：油圧ショベルの月別需要推移 (ミニショベルを除く)



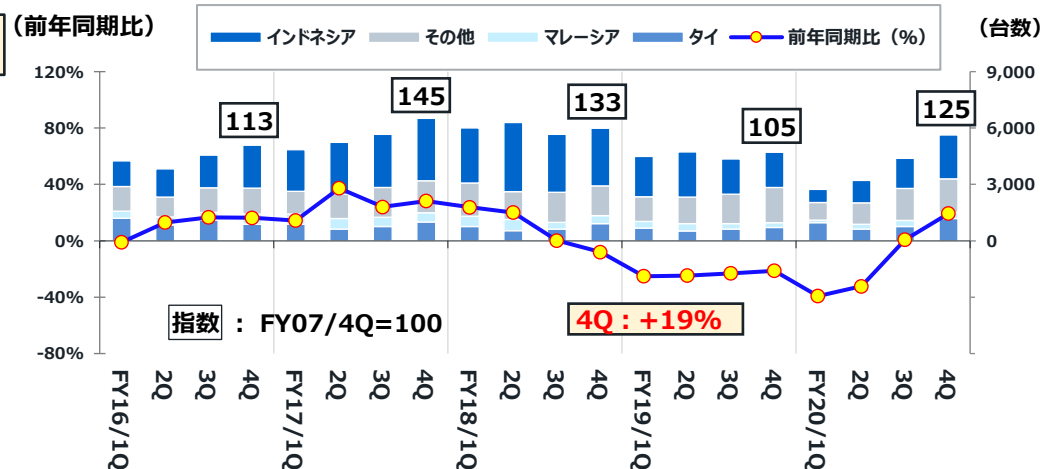
＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し： ⑤ 東南アジア

- ・2020年度の需要は、前年比▲13%減少。
- ・2021年度の需要は、前年比+10%～+15%の見通し。
- ・最大市場のインドネシアで、需要が回復。

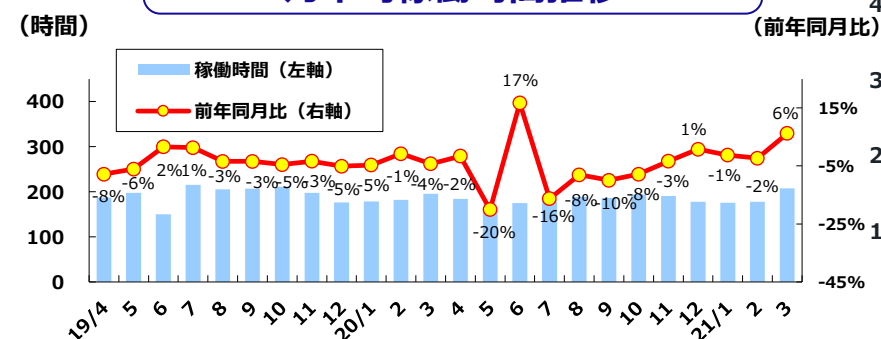
主要7建機 年度別需要推移



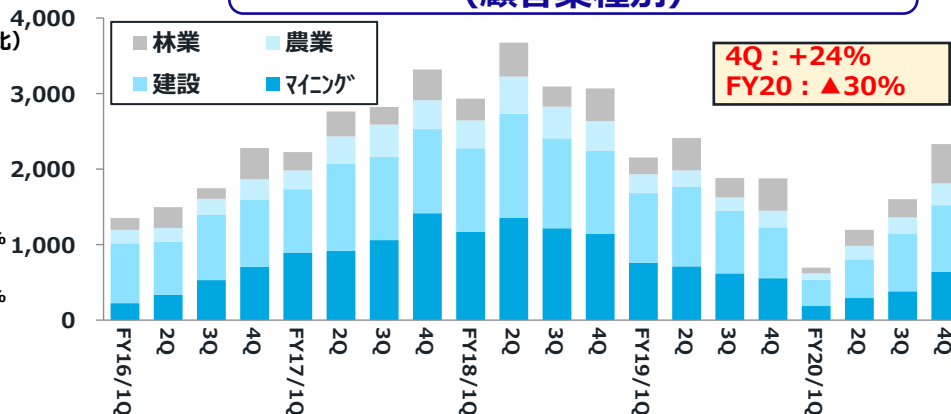
主要7建機 四半期需要推移



Komtrax (インドネシア) 月平均稼働時間推移



インドネシア：建設・鉱山機械需要推移 (顧客業種別)



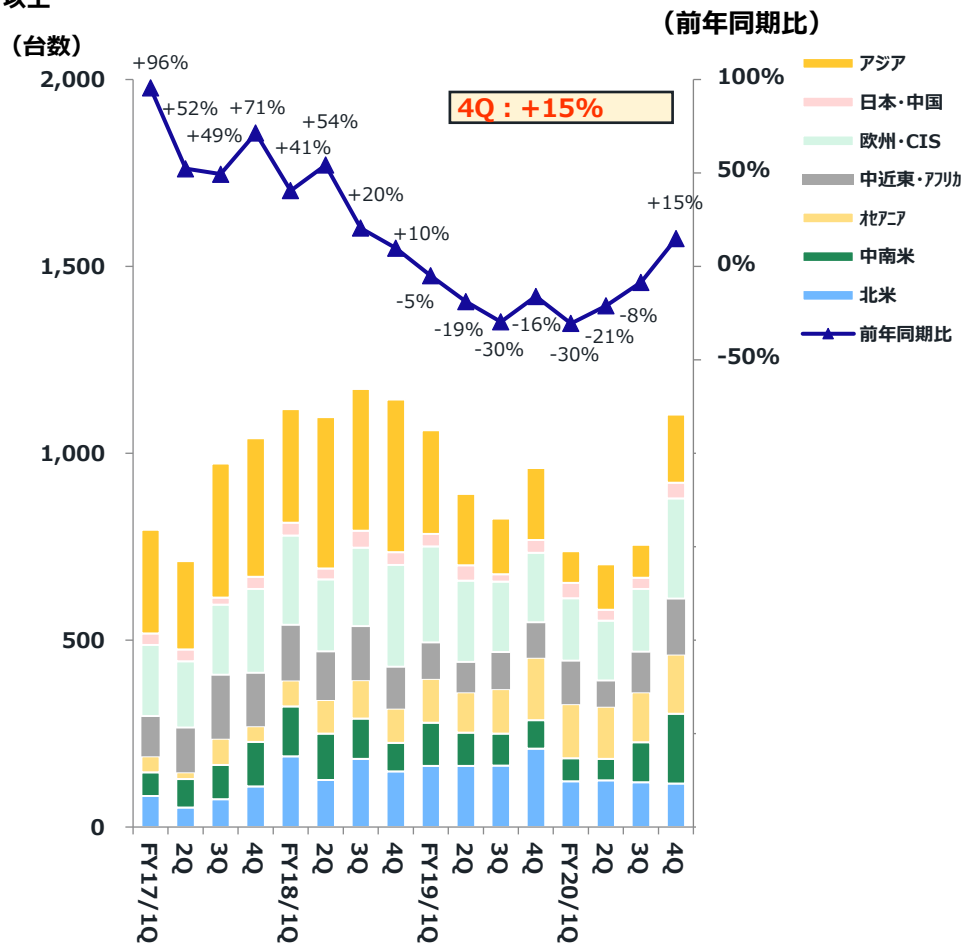
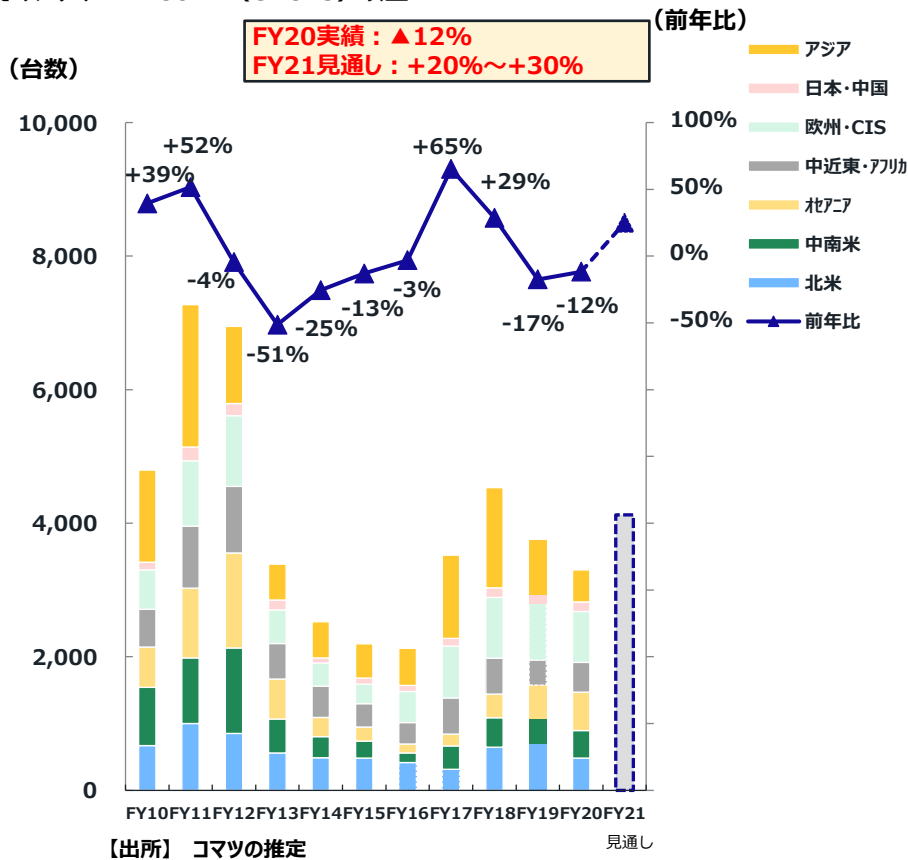
<建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と見通し

- ・2020年度の需要は、前年比▲12%減少。
- ・2021年度の需要は、主にアジア、CISで増加し、前年比+20%～+30%の見通し。

鉱山機械 年度別需要推移

鉱山機械 四半期別需要推移

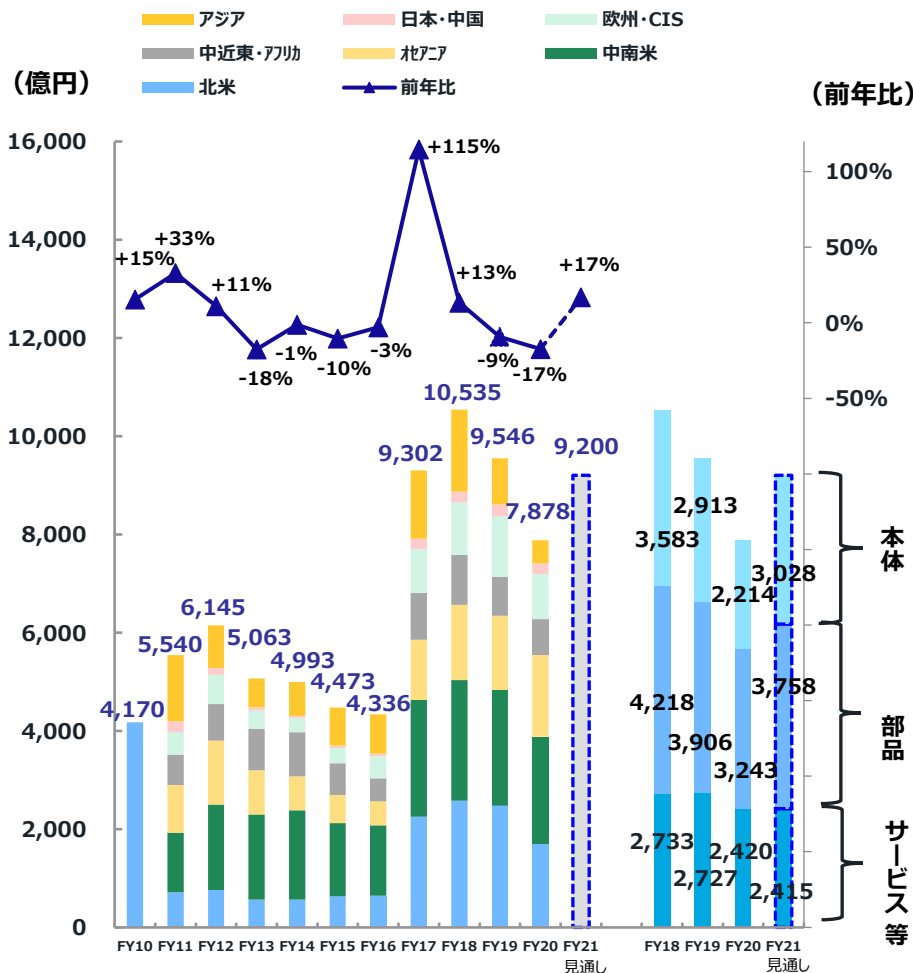
- ・タンクトラック：75 t (HD785) 以上
- ・フルパワー：525HP (D375) 以上
- ・エクスカベータ：200 t (PC2000) 以上
- ・ホイールダ（機械駆動）：810HP (WA800) 以上
- ・モーターダ：280HP (GD825) 以上



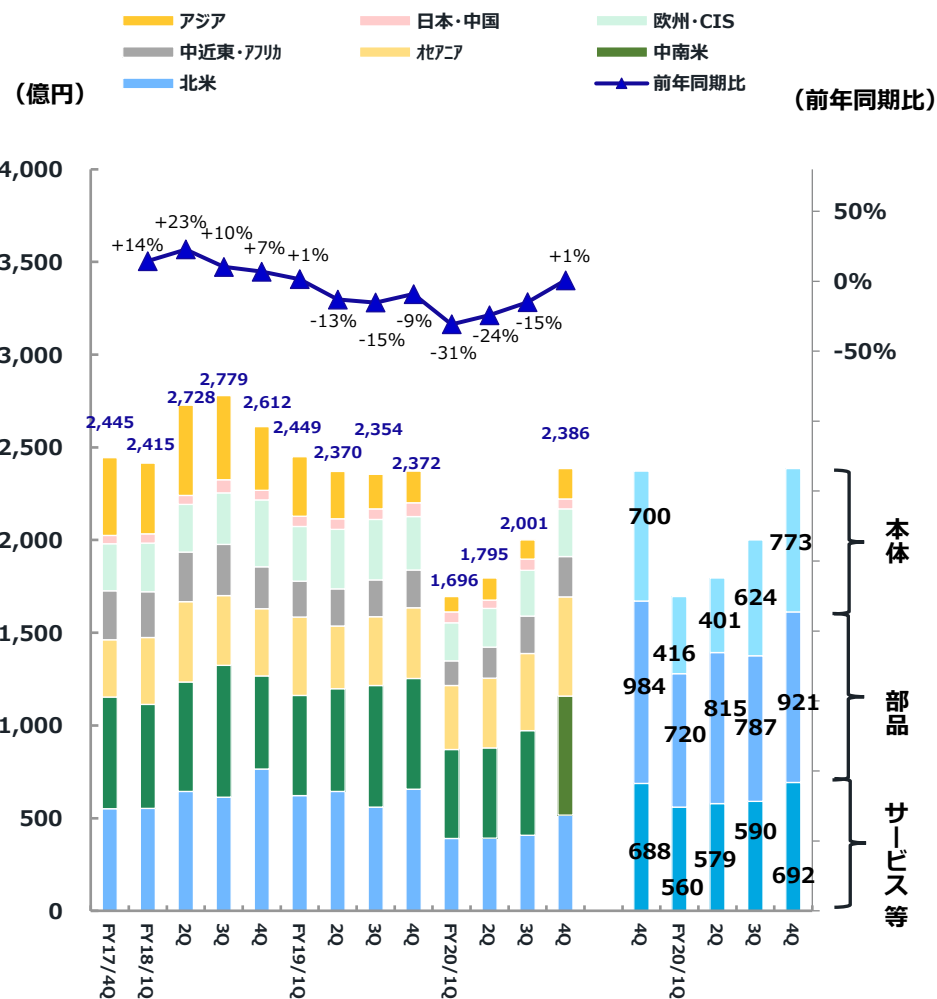
<建設機械・車両> 鉱山機械の売上高の見通し

- ・2020年度の売上高は、前年比▲17%減少の7,878億円。
- ・2021年度の売上高は、中南米やアフリカ、アジア等で増加し、前年比+17%増加の9,200億円の見通し。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)



鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス等含む)

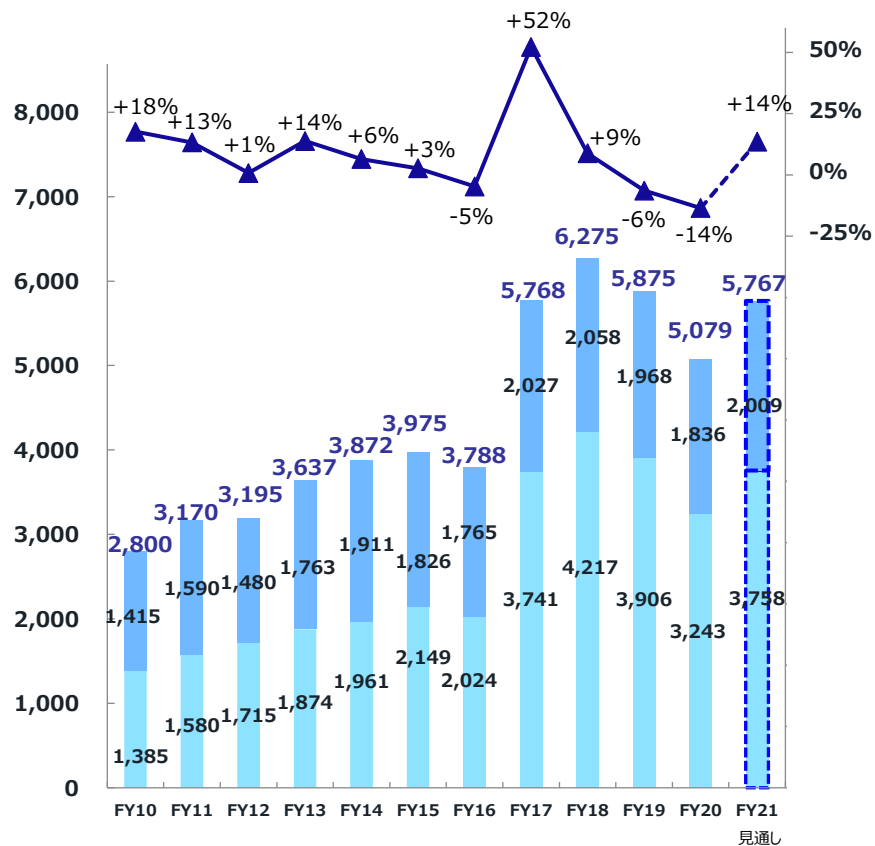


<建設機械・車両> 部品の売上高の見通し

- ・2020年度の部品売上高は、前年比▲14%減の5,079億円。
- ・鉱山機械の部品等で売上高は減少。
- ・2021年度の部品売上高は、前年比+14%増の5,767億円の見通し。

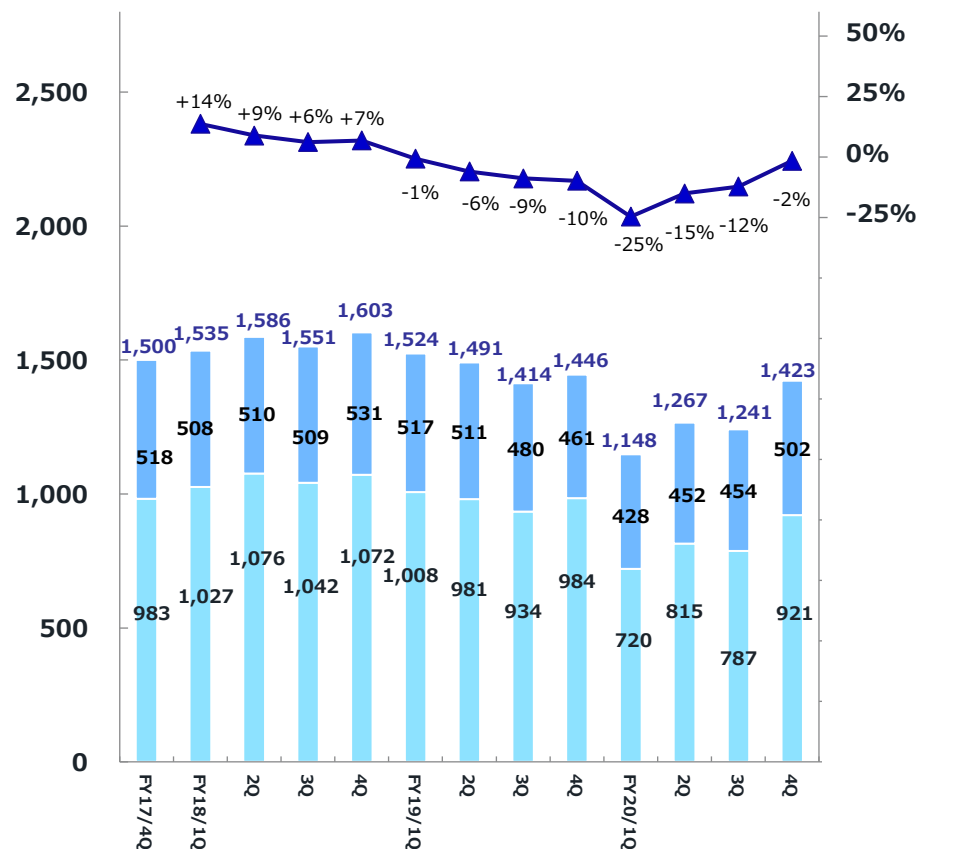
部品 年度別売上高

(億円) 建設機械 鉱山機械 前年比 (前年比) (億円)



部品 四半期別売上高

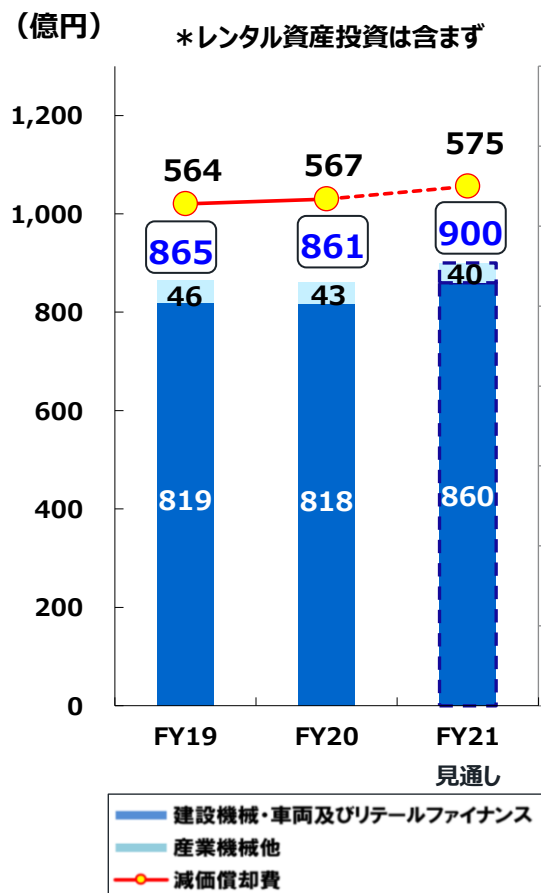
(億円) 建設機械 鉱山機械 前年同期比 (前年同期比)



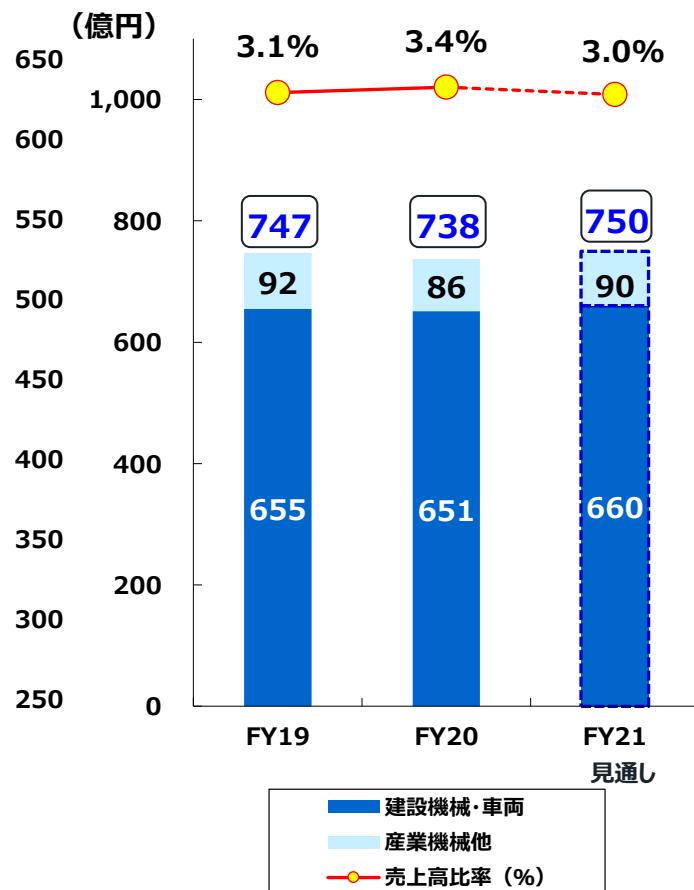
設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

- ・設備投資は、KMC新本社工場の建設や、成長分野への投資により前年比増加。
- ・研究開発費は、電動化、自動化、施工の高度化、坑内掘りハードロック事業強化等への投資により、前年比増加。
- ・固定費は、コロナ禍による活動制限が無くなることから、通常レベルに戻るが、構造改革や、通常活動費の継続的な低減によって、2019年度レベルを下回るレベルに抑制。

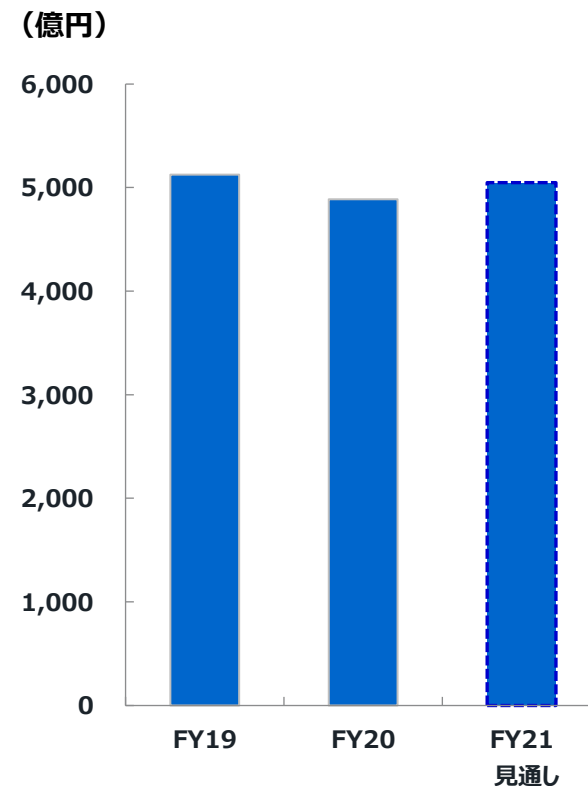
生産設備等*の投資 および減価償却費



研究開発費



固定費

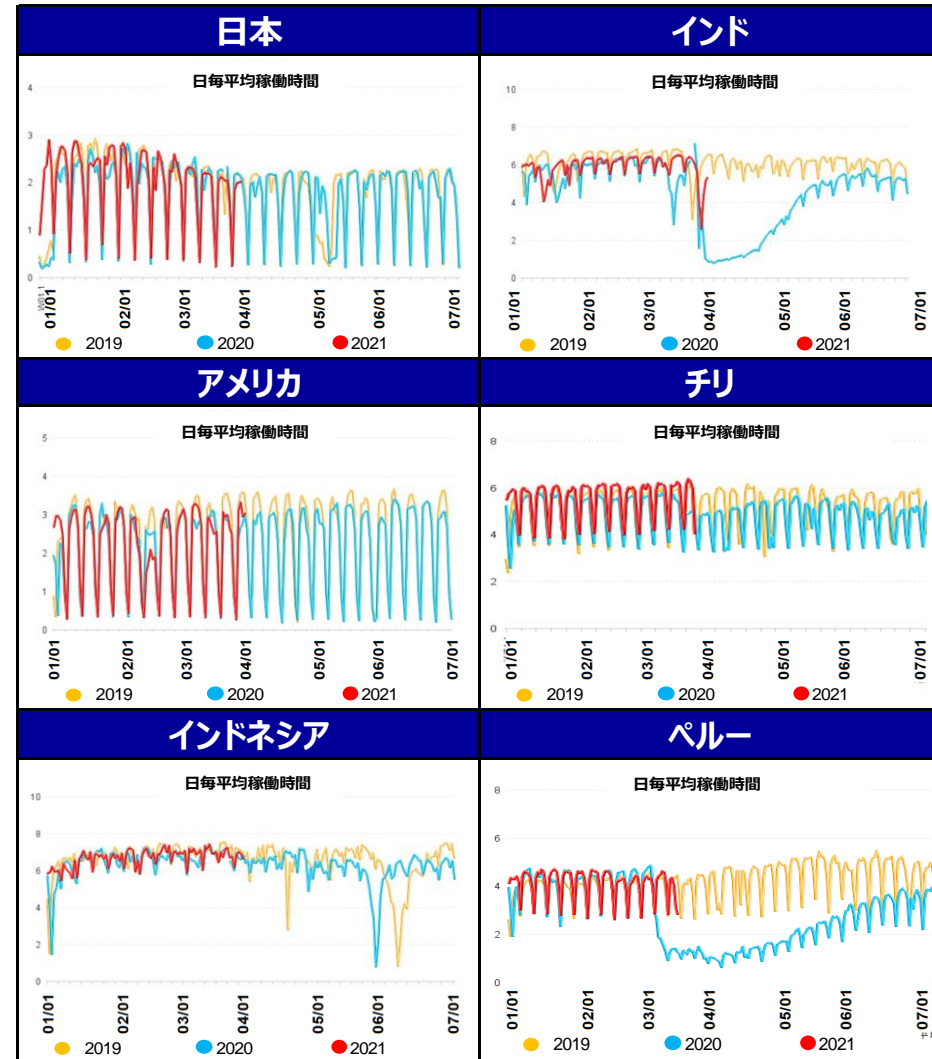
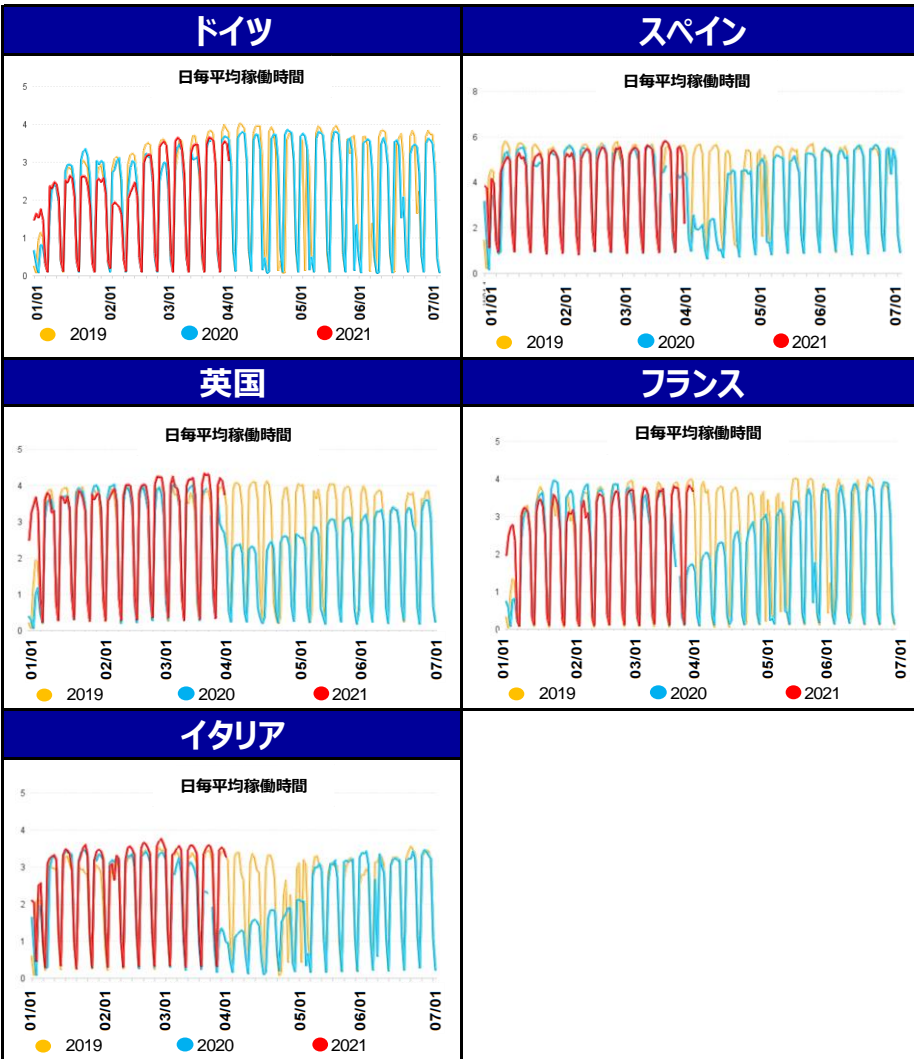


参考資料

【参考資料】Komtrax日次平均稼働時間推移

欧州主要国

その他主要地域

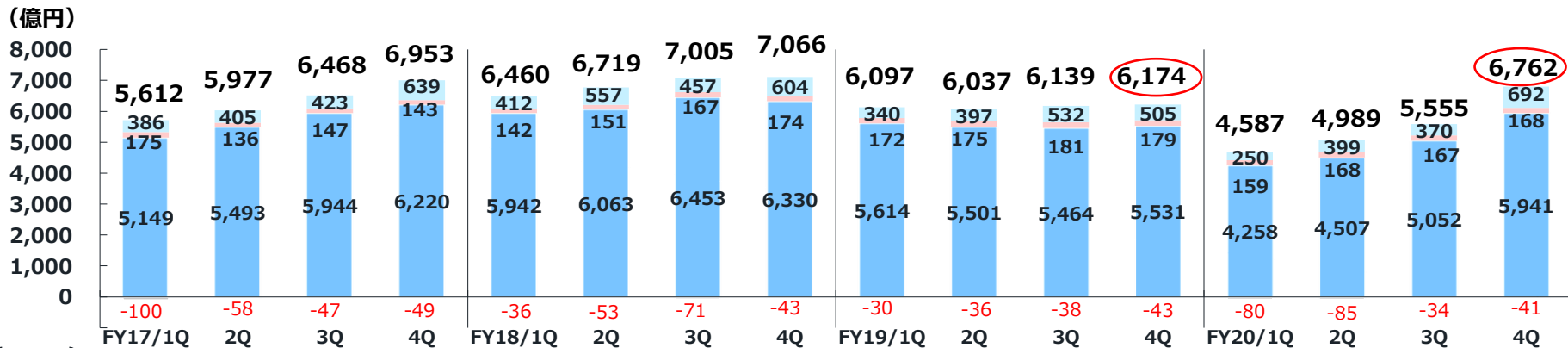


日次平均稼働時間:Komtraxを搭載した当社製建設機械の一台当たり一日平均稼働時間

【参考資料】四半期毎の売上高と営業利益の推移

連結売上高 (FY17~)

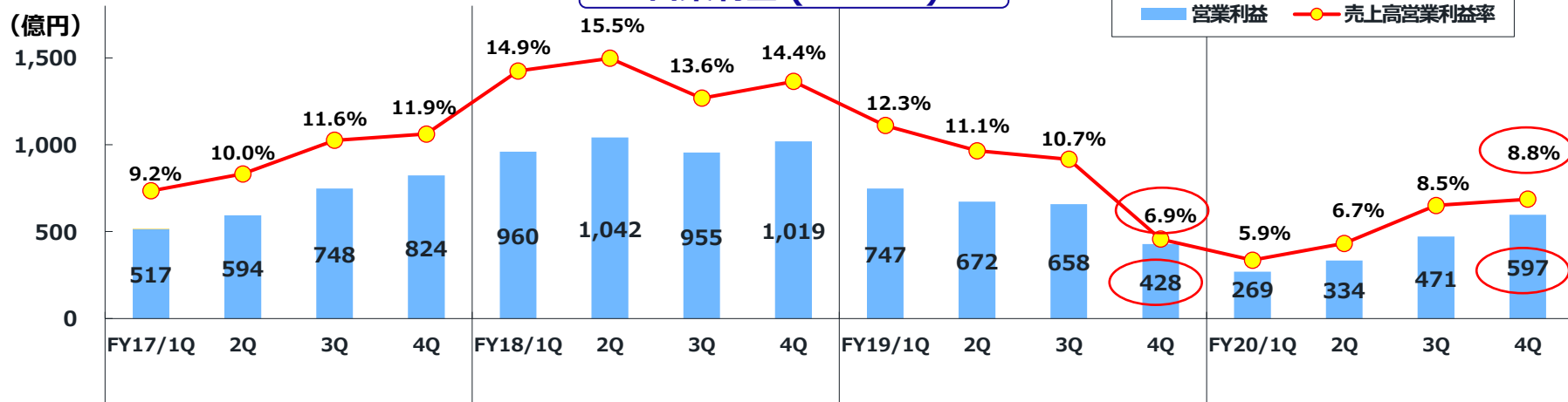
■ 産業機械他 ■ リテールファイナンス ■ 建設機械・車両 ■ 消去



為替レート

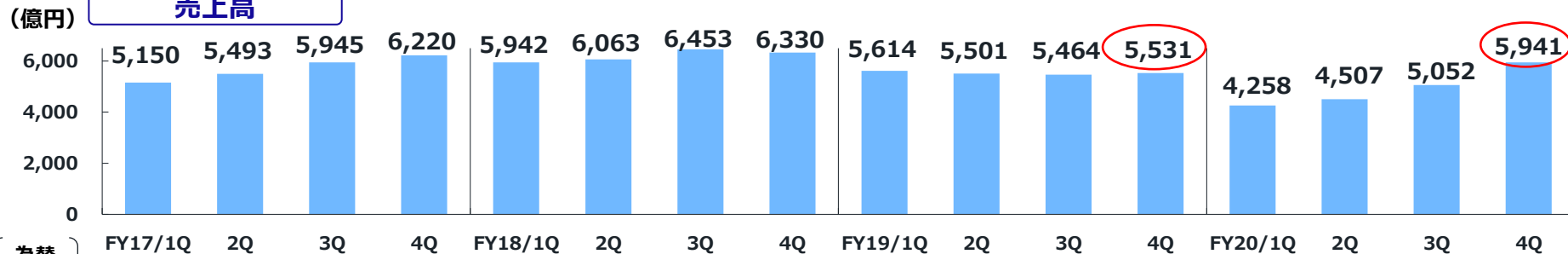
	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q
¥/USD	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7	104.9	104.8
¥/EUR	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2	123.4	127.3
¥/RMB	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2	16.2	15.5	15.4	15.5	15.1	15.3	15.7	16.2

営業利益 (FY17~)

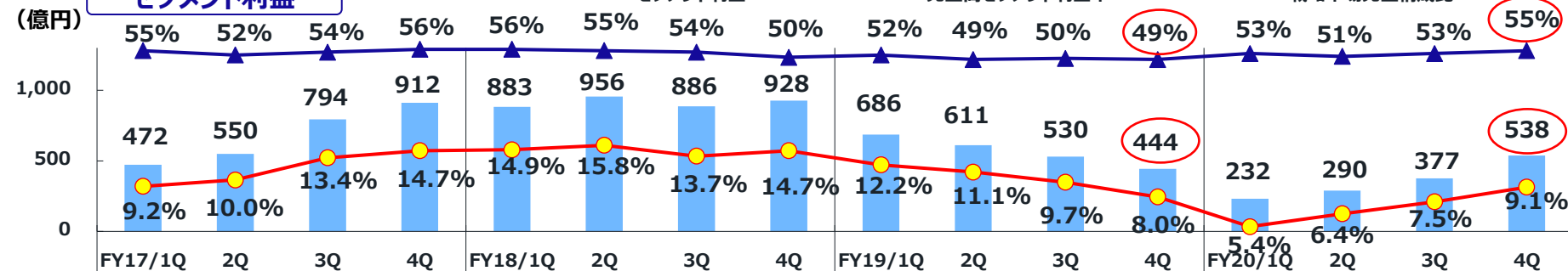


【参考資料】＜建設機械・車両＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

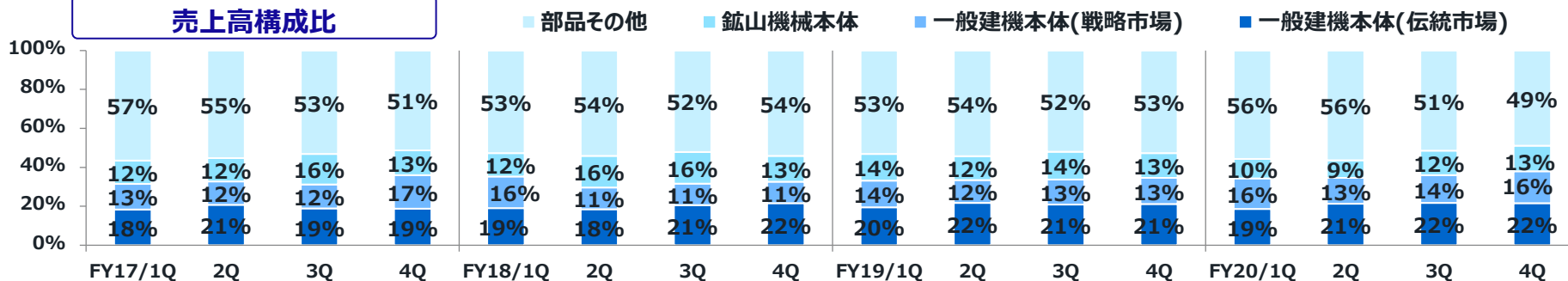
売上高



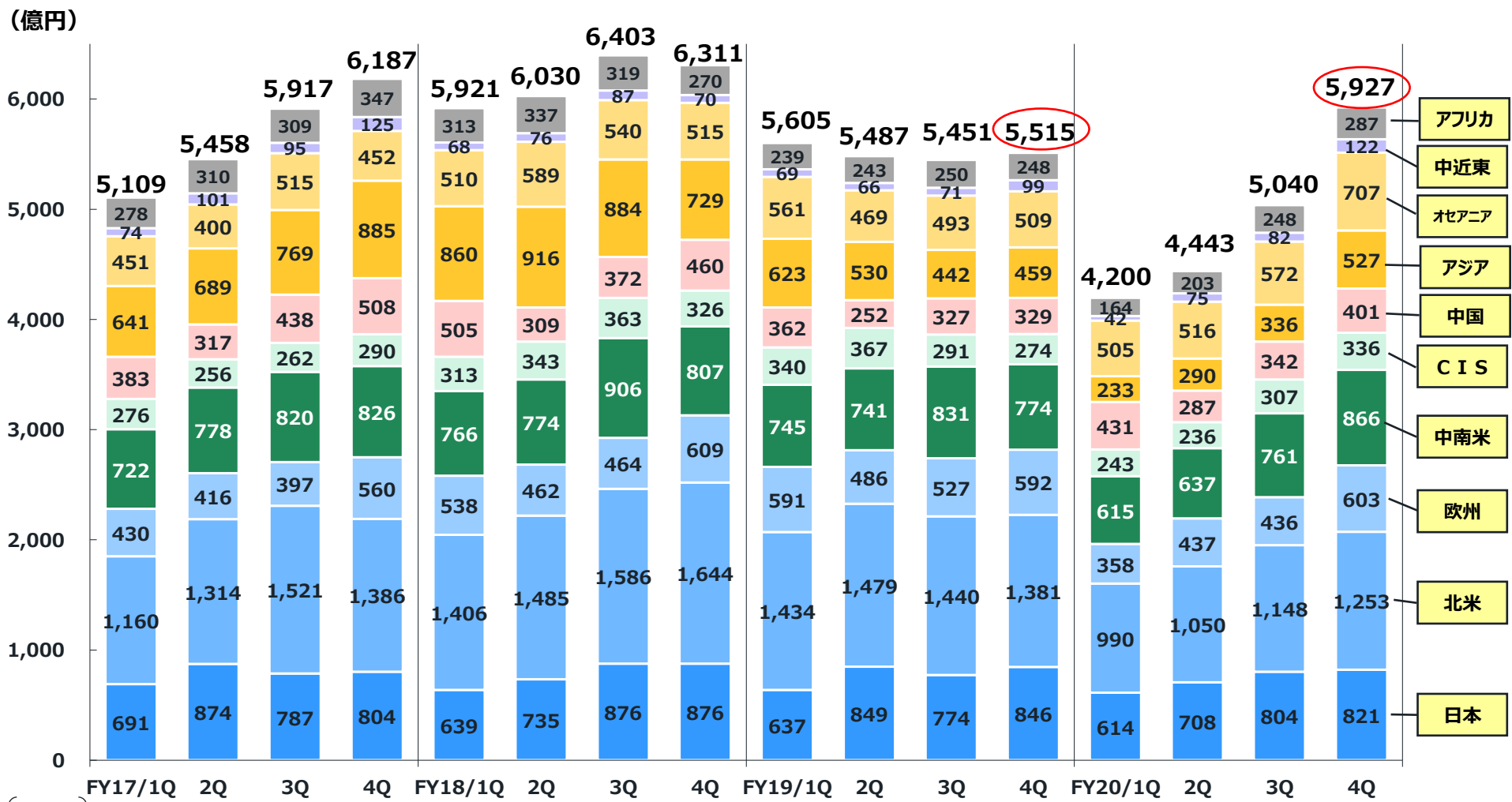
セグメント利益



売上高構成比

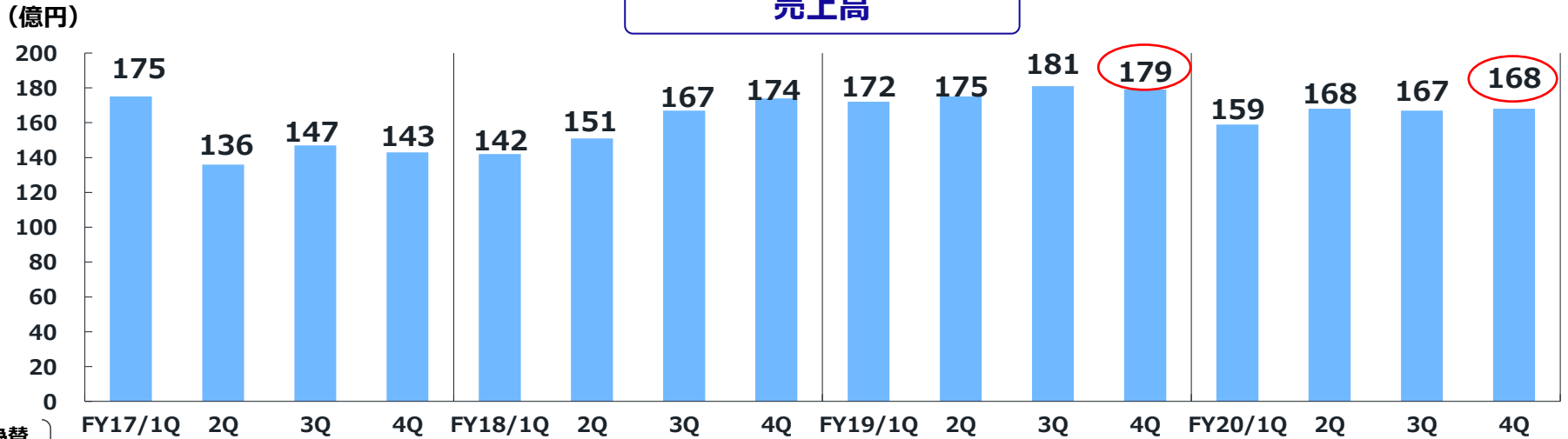


【参考資料】＜建設機械・車両＞ 四半期毎の地域別売上高（外部顧客向け）



【参考資料】<リテールファイナンス> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

売上高

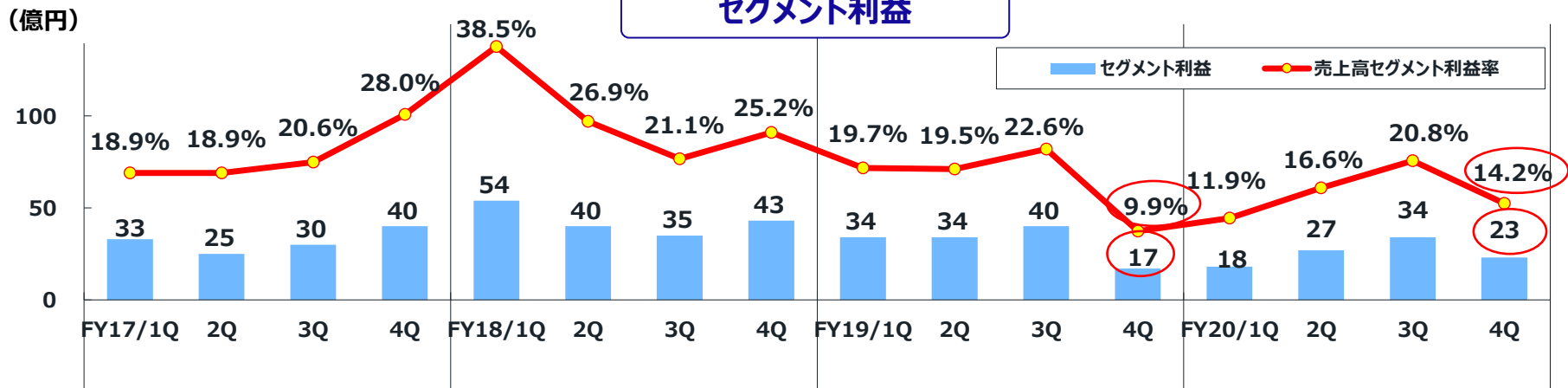


為替
レート

¥/USD	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7	104.9	104.8
¥/EUR	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2	123.4	127.3
¥/RMB	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2	16.2	15.5	15.4	15.5	15.1	15.3	15.7	16.2

	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q
¥/USD	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7	104.9	104.8
¥/EUR	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2	123.4	127.3
¥/RMB	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2	16.2	15.5	15.4	15.5	15.1	15.3	15.7	16.2

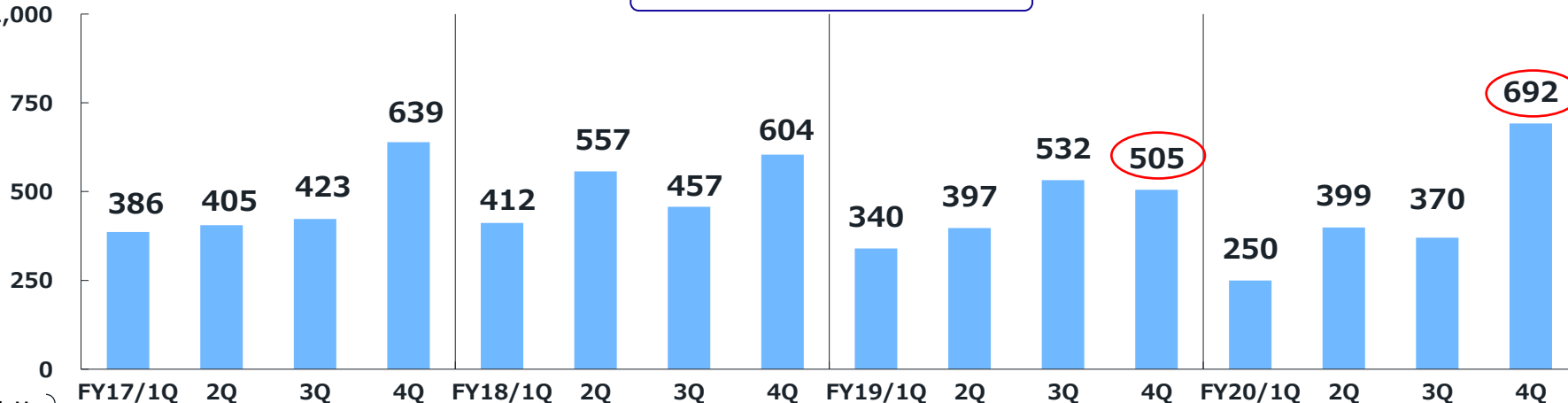
セグメント利益



【参考資料】＜産業機械他＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

(億円)
1,000

売上高

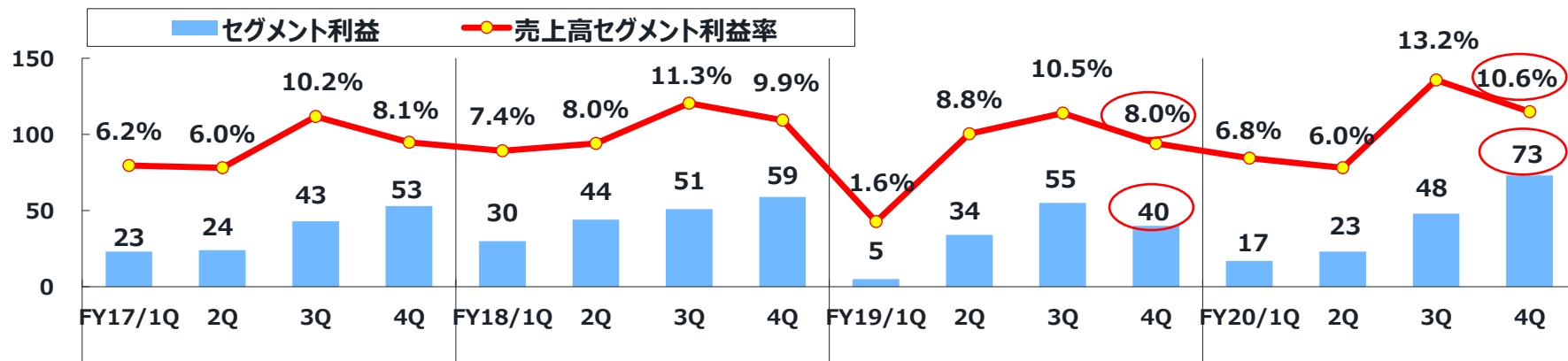


為替
レート

	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q
¥/USD	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7	104.9	104.8
¥/EUR	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2	123.4	127.3
¥/RMB	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2	16.2	15.5	15.4	15.5	15.1	15.3	15.7	16.2

(億円)

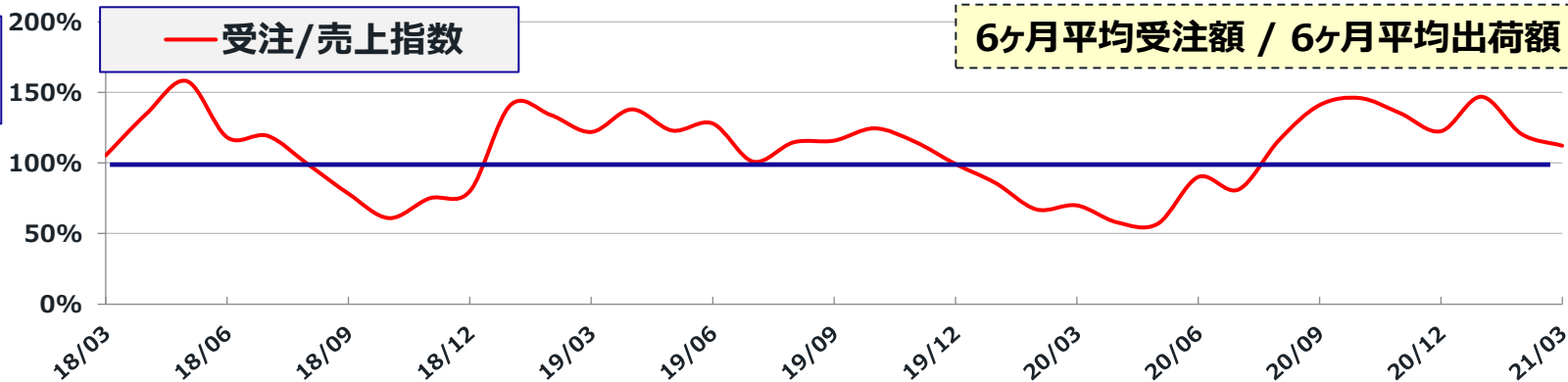
セグメント利益



【参考資料】BBLレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕 鉱山機械（本体）

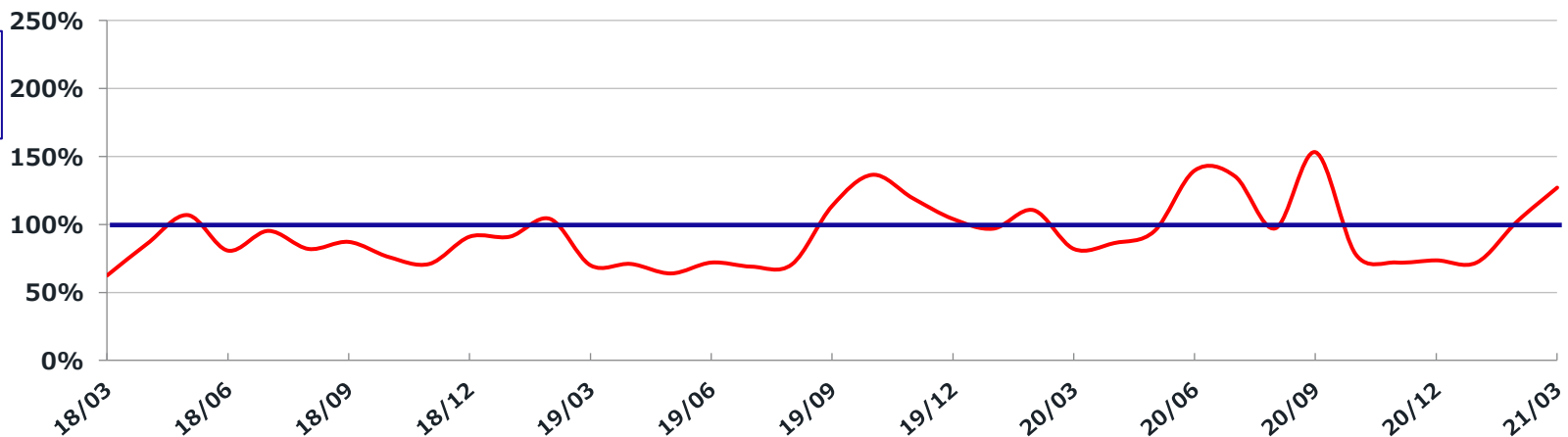
コマツアメリカ (マイニング)

730E, 830E
860E
930E, 960E
980E



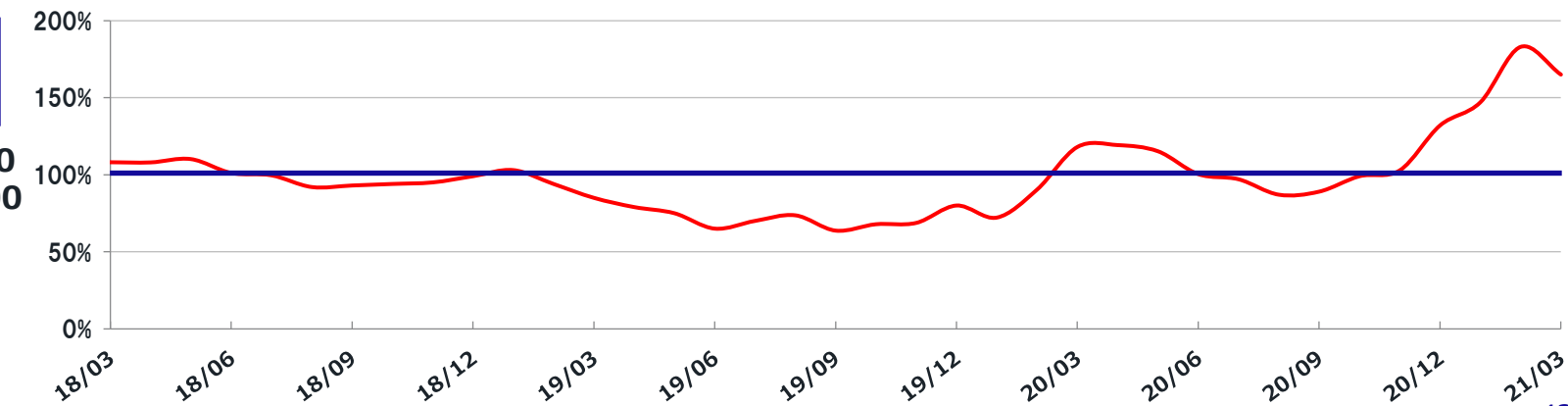
コマツドイツ (マイニング)

PC3000
PC4000
PC5500
PC7000
PC8000



コマツ単独 (マイニング)

HD785, HD1500
PC2000, PC3000
PC4000
WA800 up
D375A up
GD825A up



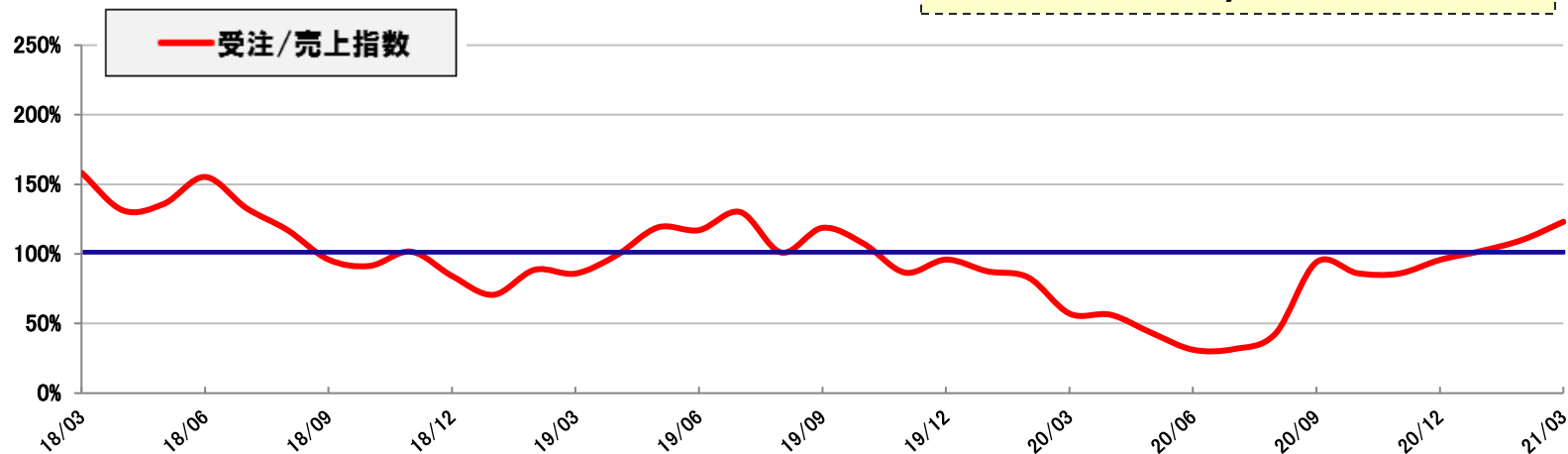
【参考資料】Bレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕KMC製の鉱山機械（本体）

6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額

KMC (マイニング)

<露天掘り>
ロープショベル
ブラストホールドリル
ドラグライン他

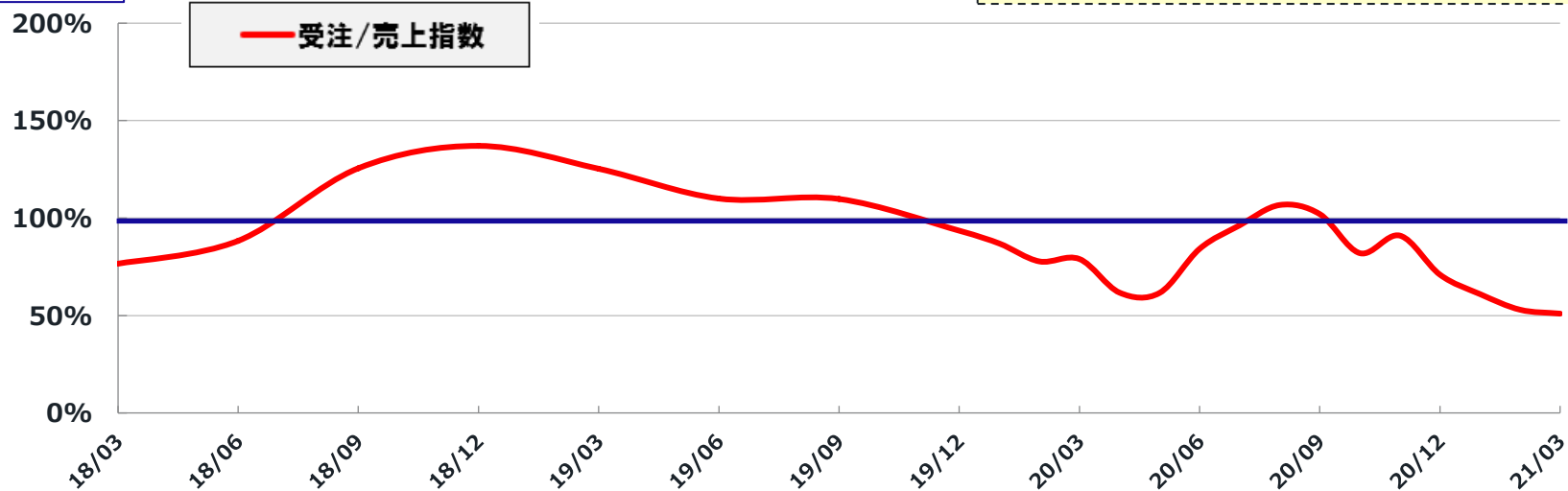
<坑内掘り>
コンティニューアスマイナ
シアラー
ロードホールダンブ
ドリルジャンボ他



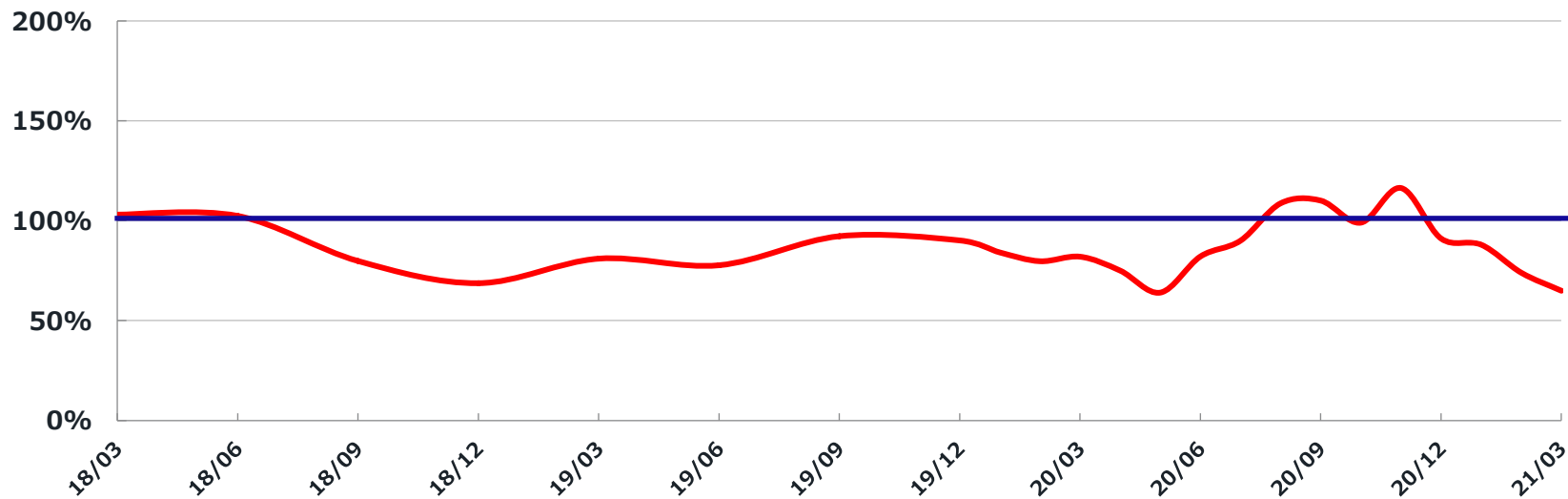
【参考資料】BBレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕産業機械

コマツ産機

6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額



コマツNTC



NTTドコモとの共同実験で初成功 商用5Gによる鉱山向け大型ICTブルドーザー遠隔操作の実証実験

- ・オンライン上で開催(2月4日~7日)された「docomo Open House™ 2021」にて、NTTドコモと共同で、商用5Gによる鉱山向け大型ICTブルドーザー「D375Ai-8」の遠隔操作の実証実験の概要について出展しました。
- ・本実証実験は、ドコモと共同で実施し、2020年11月に日本国内で初めて成功した、商用5Gを用いた建設・鉱山機械の遠隔制御です。



(2021年2月2日ニュースリリース)

CO2削減への取り組み：電動式フォークリフト、南アフリカ・リマン工場

- ・電動式フォークリフト
「FE25-2」、「FE30-2」を新発売



(2021年3月10日ニュースリリース)

- ・再生コンポーネント事業を強化
南アフリカ・新リマン工場が完成



(2021年3月15日ニュースリリース)

100周年関連トピック

・コーポレートブランド価値の向上と浸透、ご支援いただいたステークホルダーの皆さまに感謝を伝えるコミュニケーションチャンスと捉え、以下のとおり1年を通じて記念活動を展開するとともに、今後の更なる持続的な成長に向けた取り組みを推進します。

① 歴史を振り返る

・石川県小松市にあるこまつの杜を5/14にリニューアルオープンし、歴史館を新設するとともに、展示中の世界最大級のダンプトラック「930E」の横に新たに超大型油圧ショベル「PC4000」を展示します。



② 未来のビジョンを示す

・コマツが目指す10～20年後の未来の現場のありたい姿を描き、100周年記念ムービー「Komatsu future 203X」を100周年記念サイトより公開しました。



③ 社会への貢献を高める

・100周年を機に、コマツグループとして初の全社員が参加可能なグローバルな取り組みとして、社員参加型の社会貢献活動One World One Komatsuを開始しました。



④ ステークホルダーに感謝の気持ちを示す

・①～③の他、全世界で各地域において感謝の気持ちを示す取り組みを行っていきます。100周年の関連情報は「コマツ100周年記念サイト」へ公開してまいりますので、ぜひ当社ウェブサイトよりご覧ください。



Creating value together

私たちが行うものづくりは、チームワークを通じて商品、サービスなどのソリューションを提供しトータルにサポートすること、そして技術力でイノベーションを創造することです。私たちは社員だけではなく、お客さまをはじめとするすべてのステークホルダーと共に新しい価値を創出します。

コマツは、社会の成長を持続可能な形で実現するために共に歩んでいくことをステークホルダーに約束します。



【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。